

宮中野古墳群

鹿行広域水道用水供給事業及び鹿島
工業用水道事業のうち天日乾燥床築造
工事事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成29年3月

茨城県企業局鹿行水道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第424集

きゅう ちゅう の
宮中野古墳群

鹿行広域水道用水供給事業及び鹿島
工業用水道事業のうち天日乾燥床築造
工事事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 29 年 3 月

茨城県企業局鹿行水道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて、埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県企業局鹿行水道事務所による、鹿行広域水道用水供給事業及び鹿島工業用水道事業のうち天日乾燥床築造工事事業に伴って実施した、茨城県鹿嶋市宮中野古墳群の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、古墳時代の堅穴建物跡が確認でき、古墳群の形成に関わる大規模な集落跡の様相が明らかとなりました。これらの成果は、当地域の社会の成り立ちや歴史を知る上で、欠くことのできない貴重な資料となります。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県企業局鹿行水道事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、鹿嶋市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成29年 3月

公益財団法人茨城県教育財団

理 事 長 野 口 通

例　　言

1 本書は、茨城県企業局鹿行水道事務所の委託により、公益財團法人茨城県教育財團が平成26・27年度に発掘調査を実施した。茨城県鹿嶋市大字宮中字宮中野3720-3番地ほかに所在する宮中野古墳群の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査

平成26年度 平成26年12月1日～平成27年3月31日

平成27年度 平成27年4月1日～平成27年8月31日

整理 平成28年4月1日～平成29年3月31日

3 発掘調査は、調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。

平成26年度

首席調査員兼班長 寺内 久永

首席調査員 駒澤 悅郎

調査員 緑川 正實

平成27年度

首席調査員兼班長 寺内 久永

次席調査員 木村 光輝

調査員 小松崎百恵

調査員 緑川 正實 平成27年5月1日～平成27年6月30日

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長後藤一成のもと、小松崎百恵が担当した。

5 本書の作成にあたり、宮中野古墳群の性格については、國學院大學教授 笹生衛氏にご指導いただいた。

6 第26号土坑から出土した鉄製品1点（釘）、第27号土坑から出土した鉄製品1点（馬具）、第169号土坑から出土した鉄製品1点（刀子）、第18号竪穴建物跡から出土した鉄製品1点（釘）、第20号竪穴建物跡から出土した鉄製品1点（釘）、第36号竪穴建物跡から出土した鉄製品2点（釘、不明鉄製品）、第44号竪穴建物跡から出土した鉄製品1点（小札）、第46号竪穴建物跡から出土した鉄製品1点（鎌）の保存処理については、株式会社パリノ・サーヴェイに委託した。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、X = -1,640 m, Y = +69,520 mの交点を基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…、西から東へ1, 2, 3…とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c…j、西から東へ1, 2, 3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 FP - 炉跡 P - ピット SD - 溝跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑

遺物 DP - 土製品 G - ガラス製品 M - 金属製品 Q - 石器・石製品 T - 瓦

土層 K - 搅乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1、各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

焼土・赤彩

炉・火床面

窯部材・粘土範囲・炭化材・黒色処理

●土器 ○土製品 □石器・石製品 △金属製品 - - - 硬化面

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm, cm, gで示した。なお、現存値は（ ）を、推定値は〔 〕を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N-10°-E）。

7 今回の報告分で、整理の段階で遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

変更 SK70・71・72・73 → SI56

欠番 SK164・165・240・241・245・251・254・255・306・326・354・355・427・430・437・445・449・456・457・458・467・468・469・471・472 SD 9

目 次

序

例 言

凡 例

目 次

宮中野古墳群の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 位置と地形	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	9
第1節 調査の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	10
1 古墳時代の遺構と遺物	10
豊穴建物跡	10
2 平安時代の遺構と遺物	149
火葬墓	149
3 その他の遺構と遺物	151
(1) 豊穴建物跡	151
(2) 有段土坑	153
(3) 長方形土坑	173
(4) 土坑	187
(5) 溝跡	212
(6) 炉跡	215
(7) 遺構外出土遺物	216
第4節 まとめ	220
付 章 1	233
付 章 2	239
写真図版	PL 1 ~ PL42
抄 錄	
付 図	

きゅうちゅう の 宮中野古墳群の概要

遺跡の位置と調査の目的

宮中野古墳群は、鹿嶋市の西部に位置し、北浦湖岸の南東部分に隣接する標高 36 m ほどの、南北に延びる鹿島台地上に立地しています。鹿行水道事務所の敷地拡張工事にともない、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が平成 26・27 年度に 18,942m²について調査しました。



調査の内容

今回の調査区は、古墳群の西部にあたる台地縁辺部に位置しています。調査の結果、古墳時代中期（約 1,600 年前）の竪穴建物跡 55 棟、平安時代の火葬墓 3 基のほか、有段土坑や長方形土坑、土坑や溝跡、炉跡などが確認できました。主な出土遺物は、土師器（壺・椀・埴・高壺・壺・甕・甌）、須恵器（壺身・壺蓋・高壺・甕・甌）、土製品（土玉・管状土錐）、石製品（勾玉・有孔円板・臼玉・子持勾玉）、金属製品（釘カ・鎌・小札カ）などです。



第 32 号竪穴建物跡の焼土・炭化材検出の様子



第 51 号竪穴建物跡 罐遺物出土状況



出土石製品集合



第 278 号土坑完掘状況



出土土器集合

調査の内容

調査の結果、当遺跡は、出土した土器から 5 世紀後葉から 6 世紀初頭にかけての短期間に、集落が営まれていたことが分かりました。

確認できた建物跡のおよそ半数から、建物の構築材である柱などの炭化材が出土しています。このような火災跡のある建物跡の中からは、勾玉や臼玉などの石製品や、壁際に置かれた土器など、さいし祭祀の様子が見られました。建物跡に生活の痕跡がほとんど残されていないことから、集落を形成した人々は建物の利用が終わった後に、建物を燃やした可能性があります。

平安時代の火葬墓からは、火葬された人骨が見つかっています。周囲には、おおつか大塚古墳や夫婦塚古墳などが築造されており、この地が古墳時代から平安時代まで、ほいき墓域として利用されていたことも明らかとなりました。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成25年11月20日、茨城県企業局鹿行水道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、鹿行広域水道用水供給事業及び鹿島工業用水道事業のうち天日乾燥床染造工事事業地内における、埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けた茨城県教育委員会は、平成25年12月2日に現地踏査を実施し、統いて平成25年12月11・24日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成25年12月27日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県企業局鹿行水道事務所長あてに、事業地内に宮中野古墳群が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成26年1月30日、茨城県企業局鹿行水道事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条に基づく土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成26年2月4日、茨城県企業局鹿行水道事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成26年2月19日、茨城県企業局鹿行水道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、鹿行広域水道用水供給事業及び鹿島工業用水道事業のうち天日乾燥床染造工事事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成26年2月26日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県企業局鹿行水道事務所長あてに、宮中野古墳群について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として公益財団法人茨城県教育財團を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財團は、茨城県企業局鹿行水道事務所から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成26年12月1日から平成27年3月31日、及び平成27年4月1日から平成27年8月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

宮中野古墳群の調査は、平成26年12月1日から平成27年3月31日までの4か月間、平成27年4月1日から平成27年8月31日までの5か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	平成26年度				平成27年度			
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
調査準備								
表土除去								
遺構確認								
遺構調査								
遺物洗浄								
注記								
写真整理								
撤収								

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

宮中野古墳群は、茨城県鹿嶋市大字宮中字宮中野 3720 - 3 番地ほかに所在している。

鹿嶋市は茨城県の南東部に位置し、東の太平洋と西の北浦に挟まれた標高 40 m 前後の洪積台地である鹿島台地上に立地する。太平洋側は、ところどころに海食崖がみられ、その南には海岸砂丘が広がっている。北浦湖岸側には、谷津や低地が入り込み、複雑な地形をしている。

当遺跡は、鹿島台地の南端部に位置し、標高約 36m の二股に分かれた舌状の台地縁辺部に立地している。この舌状台地の南西には、北浦が広がる。台地に接する低地は、現在は湖岸から台地まで 0.5 ~ 1.5km ほどの距離があるが、かつては内海であったことから当遺跡のある台地近くまで北浦が広がっていたと考えられる。また、当遺跡の東方約 2.5km には鹿島神宮がある。

第2節 歴史的環境

宮中野古墳群周辺は、東は太平洋、西は北浦、南は鶴川といった水系に恵まれ、古くから人々の生活が営まれてきた地域である。鹿島台地上は、旧石器時代、弥生時代の遺跡は少ないが、古墳時代以降は多くの遺跡が確認されており、大規模な古墳群が多数存在し、古代以降においては鹿島郡衙や鹿島神宮などが所在する重要な地域である。

旧石器時代の遺跡としては、塩釜遺跡（17）、伏見遺跡（46）、厨台遺跡（48）、鍛冶台遺跡（49）、片野遺跡（50）、円龍台遺跡（51）、神野向遺跡（78）などがあるが、居住地としての性格を持った遺跡は見つかっていない。伏見遺跡からは、ナイフ形石器、尖頭器、搔器、削器、石核、敲石、剥片などが多数出土しているが、炉跡や配石等が無いことから、短期的な石器製作の場であった可能性がある¹⁾。

縄文時代の遺跡としては、マツサキ遺跡（13）、塩釜遺跡、ミシマ遺跡（18）、沼尾原遺跡（20）、中町附遺跡（44）、角内附遺跡（45）、伏見遺跡、厨台遺跡、鍛冶台遺跡、片野遺跡、円龍台遺跡、神野向遺跡、御園生遺跡（83）、神野遺跡（91）、殿坪・国主遺跡（92）、新町遺跡（93）、根畠遺跡（94）などがある。中町附遺跡では、集石遺構が検出され、田戸下層式、加曾利 E II 式、加曾利 B 式といった早期から後期の遺物が見つかっている²⁾。御園生遺跡では、加曾利 E II ~ III 式期の縄文時代中期後葉の竪穴建物跡 5 棟、土坑 20 基が確認され、土器片錘や石錘などといった漁労具も多く出土している³⁾。塩釜遺跡では、加曾利 E IV 式、称名寺式、堀之内式期の土器が出土しており、中期後葉から後期にかけての集落跡である⁴⁾。

弥生時代の遺跡としては、ミシマ遺跡、大沼遺跡（19）、伏見遺跡、厨台遺跡、鍛冶台遺跡、片野遺跡、円龍台遺跡、鹿島城跡（64）、片岡遺跡（76）、神野向遺跡がある。片岡遺跡からは、弥生時代後期後半の竪穴建物跡が検出されている。

古墳時代の遺跡としては、宮中野古墳群（1）、大塚辺田横穴群（4）、爪木古墳群（5）、須賀古墳群（9）、塚原古墳群（12）、ミシマ遺跡、山之上塚群（43）、伏見遺跡、厨台遺跡、鍛冶台遺跡、片野遺跡、円龍台遺跡、鹿島神宮境内遺跡（57）、鹿島城跡、神野向遺跡、長町遺跡（79）、新畠遺跡（80）、御園生遺跡、殿坪・国主遺跡、根畠遺跡がある。当遺跡の該当する宮中野古墳群の築造時期は 5 世紀から 7 世紀後半にかけてとされ、過去に

は開発等により湮滅したものもあり、現在は前方後円墳 16 基、帆立貝式古墳 2 基、方墳 2 基、円墳 106 基の総数 126 基の古墳が存在する。このうち、最古のものであるお伊勢山古墳は全長 96 m の前方後円墳で、その築造は 5 世紀である。古墳群の中で最大の規模を誇る夫婦塚古墳は、6 世紀中葉から後葉に築造された前方後円墳で、1983 年に測量調査が行われ、全長 110 m で県内でも 5 番目の大きさを誇る。帆立貝式古墳である大塚古墳は、別名 勅使塚とも呼ばれ、全長 92 m とこの形態の古墳の中でも東日本で 2 番目の大きさである。明治大学により 1981 年から 3 次にわたる調査が行われ、箱式石棺の築造技術に横穴式石室を取り入れた横口式石棺であることが分かったほか、石室内からは銀製刀子柄頭や銀象牙のある柄頭が出土している⁵⁾。周辺には爪木古墳群や須賀古墳群、塙原古墳群、山之上塙群があるが、いずれも台地縁辺部に立地している。集落跡としては、伏見遺跡、厨台遺跡、鍛冶台遺跡、片岡遺跡、神野向遺跡などがあり、片岡遺跡や厨台遺跡では、後期の五領式期の堅穴建物跡がみつかっている^{6・7)}。

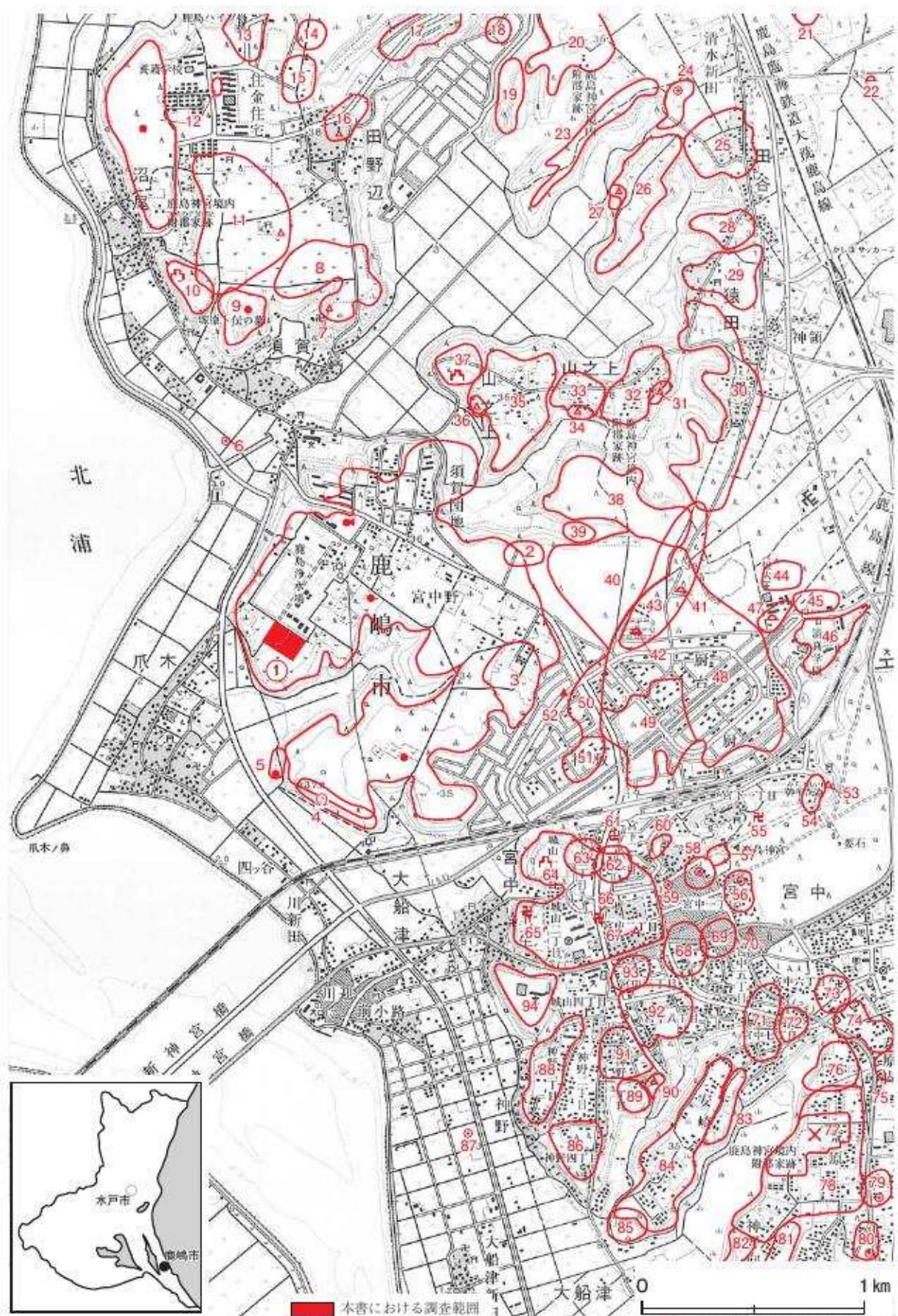
奈良・平安時代の遺跡では、マツサキ遺跡、田野辺 B 遺跡⁸⁾（14）、中町附遺跡、伏見遺跡、厨台遺跡、鍛冶台遺跡、片野遺跡、円龍台遺跡、入田遺跡⁹⁾（52）、鹿島城跡、道祖神前遺跡¹⁰⁾（68）、角内遺跡¹¹⁾（69）、神野向遺跡、長町遺跡、新畠遺跡、御園生遺跡、神野遺跡、殿坪・国主遺跡、新町遺跡、根畠遺跡がある。神野向遺跡は、常陸国鹿島郡衙跡と推定されている遺跡で、正倉院跡、郡庁跡、厨家相当施設などがみつかり¹²⁾、1985 年には国の史跡に指定された¹³⁾。多数の墨書き器や円面鏡なども出土している。1999 年の調査で、長屋状の連房式堅穴工房跡が検出され、鍛冶工房が郡衙造営に関わったと考えられている。根畠遺跡や角内遺跡でも小鍛冶や銅の工房跡がみつかっている¹⁴⁾。

中世の遺跡では、塙原館跡¹⁵⁾（10）、田野辺 B 遺跡、御山塙群¹⁶⁾（47）、厨台遺跡、鍛冶台遺跡、片野遺跡、円龍台遺跡、大町遺跡¹⁷⁾（58）、鹿島城跡、角内遺跡、御園生遺跡、神野遺跡、新町遺跡、根畠遺跡がある。塙原館跡は、1972 年の調査の際に土壘や堀跡が確認されたことから、中世常陸大掾氏の庶子である鹿島氏の配下であった塙原氏が居城とした館跡と推定されている¹⁸⁾。鹿島城跡は、鹿島氏が居城とした城跡で、1980 年に分布調査をはじめ、以降 8 回も発掘調査が行われた。本丸内の遺構や掘立柱建物跡、溝跡、土坑などが確認されている¹⁹⁾。本丸にあたる部分は現在、城山公園となっている。

*文中の〈 〉内の番号は、表 1 及び第 1 図の該当番号と同じである。

註

- 1) 伏見遺跡調査団「常陸伏見」伏見遺跡調査会 1979 年 11 月
- 2) 鹿島町教育委員会「中町附遺跡」 1982 年 3 月
- 3) 荒井保雄 成島一也「御園生遺跡 国補緊急 14-08-214-0-050 号埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財團文化財調査報告』第 200 集 2003 年 3 月
- 4) 茨城県鹿島町遺跡保護調査会「農耕台遺跡群 塩釜遺跡発掘調査概報」鹿島町教育委員会 1979 年 3 月
- 5) 鹿島町教育委員会「宮中野古墳群発掘調査概報－昭和 57 年度・大塚古墳発掘調査概要－」 1983 年 3 月
- 6) 竹端勇「片岡遺跡発掘調査報告書Ⅱ」財團法人鹿嶋市文化スポーツ振興事業団 1996 年 3 月
- 7) 風間和秀 宮崎美和子 小田代昭丸 岩松和光「鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告 X V」財團法人鹿嶋市文化スポーツ振興事業団 1996 年 3 月
- 8) 石橋美和子「鹿嶋市内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書 21 鹿嶋市内 No.86 遺跡 (KT86) 神野向遺跡鹿嶋市内 No.87 遺跡 (KT87) 二子塙古墳群 1 号墳」鹿嶋市教育委員会 2000 年 3 月
- 9) 植田敏雄編「図説 鹿行の歴史」郷土出版社 2003 年 10 月
- 10) 田口崇「鹿島町内遺跡発掘調査報告書 V」鹿島町教育委員会 1984 年 3 月
- 11) 細田崇 新垣清貴「塙原館跡－平成 21 年度確認調査概報－」財團法人鹿嶋市文化スポーツ振興事業団 2010 年 3 月
- 12) 石橋美和子「鹿島城跡 VI」財團法人鹿嶋市文化スポーツ振興事業団 2006 年 2 月



第1図 宮中野古墳群周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1 「潮来」「常陸鹿島」）

表1 宮中野古墳群周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代							
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸	
①	宮中野古墳群				○				48	厨台遺跡	○	○	○	○	○	○	○
2	須賀台遺跡	○							49	鍛冶台遺跡	○	○	○	○	○	○	○
3	須賀道遺跡				○	○	○		50	片野遺跡	○	○	○	○	○	○	○
4	大塚辺田横穴群			○					51	円龍台遺跡	○	○	○	○	○	○	
5	爪木古墳群			○					52	入田遺跡				○			
6	七反田遺跡	○		○	○	○	○		53	御手洗貝塚	○						
7	長吉寺貝塚	○							54	みたらし坂遺跡	○						
8	大門遺跡	○							55	鹿島神宮寺跡2期				○	○		
9	須賀古墳群			○					56	桜山墓地跡					○		
10	塚原館跡						○		57	鹿島神宮境内遺跡			○				
11	梶内遺跡	○		○	○				58	大町遺跡				○	○		
12	塚原古墳群			○					59	大町横穴				○			
13	マツサキ遺跡	○			○				60	正等寺西ノ崖遺跡	○						
14	田野辺B遺跡				○	○	○		61	普濟寺跡				○			
15	田野辺遺跡			○					62	鹿詣遺跡			○				
16	前原遺跡				○				63	祝詞遺跡			○	○	○	○	
17	塙釜遺跡	○	○						64	鹿島城跡	○	○	○	○	○		
18	ミシマ遺跡	○	○	○					65	伝根本寺跡							
19	大沼遺跡		○						66	鹿島神宮寺跡3期					○		
20	沼尾原遺跡	○							67	新町貝塚							
21	清水遺跡			○					68	道祖神前遺跡			○				
22	久保山塚						○		69	角内遺跡			○	○	○		
23	後谷遺跡	○	○		○				70	地蔵様貝塚							
24	田谷屋敷跡遺跡						○		71	栗林遺跡	○		○	○	○		
25	西野遺跡				○	○			72	広内遺跡	○		○	○	○		
26	畠峰遺跡	○	○	○	○				73	三明神遺跡				○			
27	田谷貝塚	○							74	萩原遺跡	○		○	○	○		
28	見崎遺跡	○		○	○				75	萩原内遺跡	○			○			
29	北ノ内遺跡	○		○	○	○			76	片岡遺跡	○	○	○	○	○		
30	石崎遺跡	○		○	○	○			77	鹿島神宮境内附郡家跡			○				
31	山之上A貝塚	○							78	神野向遺跡	○	○	○	○	○	○	
32	坂戸遺跡	○							79	長町遺跡			○	○			
33	孫田遺跡	○		○	○	○	○		80	新畠遺跡			○	○			
34	山之上貝塚	○							81	大地遺跡				○			
35	西畠遺跡	○		○	○	○			82	神野向南遺跡	○	○					
36	山之上B貝塚	○							83	御園生遺跡	○		○	○	○		
37	竜会城跡						○		84	安崎遺跡	○		○				
38	深山遺跡	○			○				85	平須賀遺跡		○					
39	小篠遺跡				○	○			86	神野南遺跡	○		○	○	○		
40	山之上南遺跡				○	○			87	湖岸水田遺跡			○	○	○	○	
41	六十六部塚								88	神野後遺跡			○	○	○	○	
42	厨台塚						○		89	猪橋遺跡	○						
43	山之上塚群				○				90	神野谷貝塚	○						
44	中町附遺跡	○			○				91	神野遺跡	○			○	○		
45	角内附遺跡	○							92	殿坪・国主遺跡	○		○	○			
46	伏見遺跡	○	○	○	○	○			93	新町遺跡	○		○	○	○	○	
47	御山塚群								94	根畠遺跡	○		○	○	○		



第2図 宮中野古墳群調査区設定図（鹿嶋市都市計画図 2,500 分の 1）

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

宮中野古墳群は、鹿嶋市の西部に位置し、北浦東岸の標高約36mの鹿島台地縁辺部に立地している。今回報告するのは、平成26年度に調査を行った6,794m²と、平成27年度に調査を行った12,148m²のあわせて18,942m²で、調査前の現況は畑地及び市道である。

調査の結果、竪穴建物跡57棟（古墳時代55・時期不明2）、火葬墓3基（平安時代）のほか、時期不明の有段土坑29基、長方形土坑84基、土坑332基、溝跡11条、炉跡4基を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に60箱出土している。主な遺物は、土師器（壺・椀・高壺・壺・鉢・甕・甌・手捏土器・炉器台）、須恵器（壺身・壺蓋・高壺・無蓋高壺・甌・甌）、土製品（土玉・管状土錘）、石製品（紡錘車・砥石・勾玉・白玉・有孔円板・子持勾玉）、金属製品（刀子・鎌・釘・馬具）、自然遺物（炭化米）などである。

第2節 基本層序

平成26年度は、調査区中央部の台地上の平坦面（P11b4区）に、平成27年度は調査区東側の平坦面（P13i5区）にそれぞれテストピットを設定し、基本土層の観察を行った。

第1層は、暗褐色を呈する耕作土である。焼土粒子を微量、ローム粒子を少量含み、粘性・締まりとともに弱く、層厚は40～60cmである。

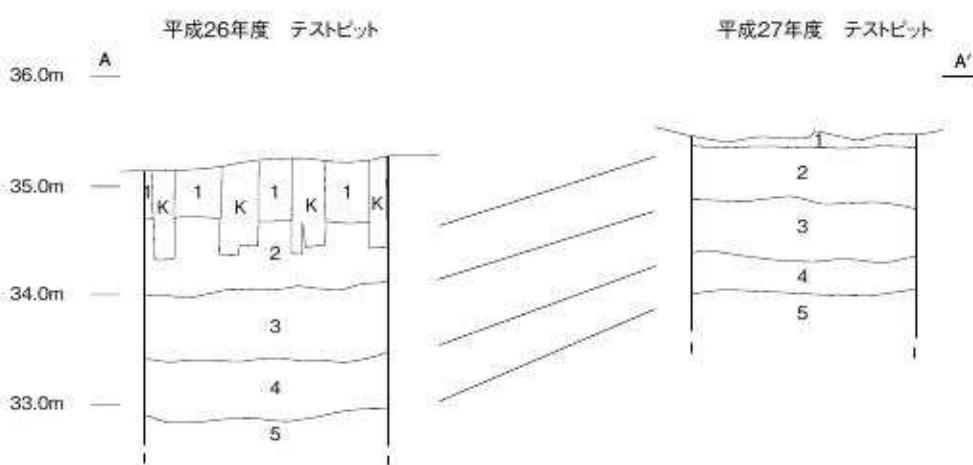
第2層は、明褐色のソフトローム層である。粘性・締まりとともにやや強い。層厚は40～70cmである。

第3層は、明褐色のハードローム層である。粘性は強く、締まりはやや強い。層厚は50～70cmである。

第4層は、にぶい褐色のハードローム層である。粘性・締まりとともにやや強い。層厚は30～60cmである。

第5層は、にぶい褐色のハードローム層である。粘性はやや強く、締まりは強い。下層が未掘のため、本来の層厚は不明である。

なお、遺構は、第2層の上面で確認した。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡55棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第4・5図 PL 2）

位置 調査区北西部のN10d7区、標高345mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.89m、短軸4.82mの方形で、主軸方向はN-46°-Wである。壁は高さ25~45cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅10~18cm、深さ4~8cmの壁溝が全周している。間仕切り溝は4条で、長さ90~128cm、深さ5~10cmである。3条は壁溝からP1~P3に向かって延びており、残りの1条は、P4の北側に位置している。

炉 北西壁寄りに位置する。長径137cm、短径86cmの不整梢円形の地床炉である。床面からの深さは7cmで、炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子少量、ロームブロック微量

ピット 7か所。P1~P4は径25~43cm、深さ75~80cmで、規模や配置から主柱穴である。P5は深さ22cmで、南東壁際のほぼ中央に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。P6~P7は北コーナー部と西コーナー部に左右対称に位置し、深さ4~7cmで、性格は不明である。

ピット土層解説（P3、P5共通）

1 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック、焼土ブロック微量	4 褐色	ローム粒子多量
2 暗褐色	ローム粒子多量、炭化物微量	5 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック、炭化粒子少量、焼土ブロック微量		

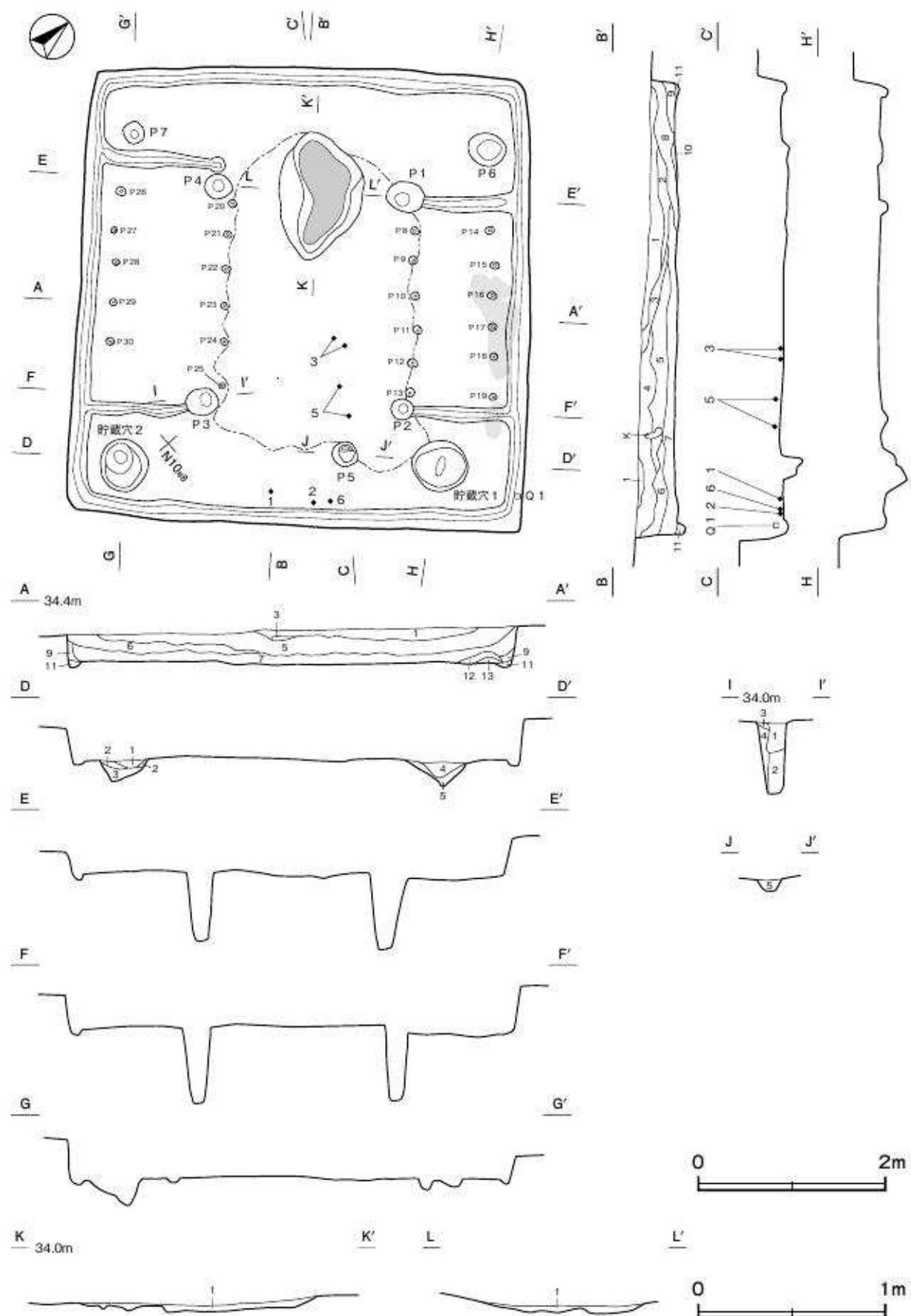
小ピット 23か所。P1~P2の間にP8~P13の6か所、それと並行するように北東壁際にP14~P19の6か所、中央部の硬化面を挟んでP3~P4の間にP20~P25の6か所、それと並行するように南西壁際にP26~P30の5か所ある。各ピットの径は7~10cmで、深さは5~12cmである。各ピット列の長さは162~196cmで、ピット間81~121cmである。ピットの配列や形状及び、ピット列の内部まで硬化面が広がっていないことから、ベッド状施設を構成したピットと考えられる。

貯蔵穴 2か所。南コーナー部と東コーナー部に位置している。径52~60cmの円形で、深さ23~27cmの擂鉢状である。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量	4 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック多量、炭化物微量		

覆土 13層に分層できる。第1~8層は、レンズ状の堆積であることから、自然堆積である。第9~13層は、焼土や炭化物が多く含まれていることや、部分的にブロック状に堆積していることから埋め戻されている。



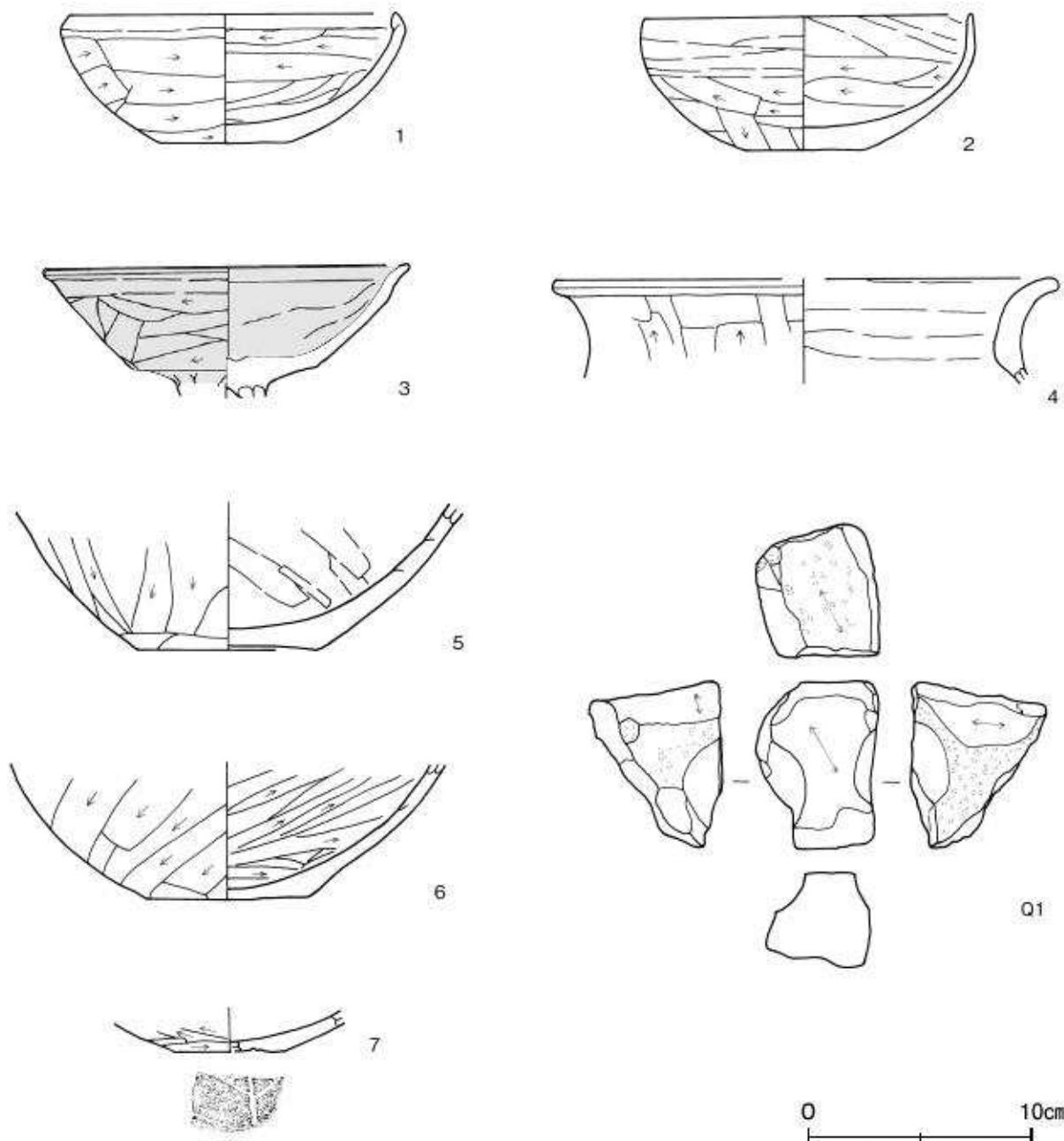
第4図 第1号竪穴建物跡実測図

土層解説

1 黒 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗 褐 色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	9 黒 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
3 黒 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	10 暗 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック少量
4 黒 褐 色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子微量	11 褐 色	ロームブロック多量
5 暗 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12 暗 赤 褐 色	焼土粒子多量、炭化物中量、ロームブロック少量
6 暗 褐 色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	13 赤 褐 色	焼土ブロック多量、炭化粒子中量、ローム粒子少量
7 暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量		

遺物出土状況 土師器片 81 点(坏 17, 高坏 1, 壺類 63), 石器 1 点(砥石)が出土している。1・2 はほぼ完形で、南東壁際の床面から正位の状態で出土している。3 は、東部の床面から出土している。6 は 2 に隣接して逆位で押しつぶされた状態で出土している。Q 1 は、東コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀後葉と考えられる。



第5図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図

第1号竪穴建物跡出土遺物観察表（第5図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	壺	14.6	5.9	6.0	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラ削り	床面	95% PL27
2	土師器	壺	14.7	6.2	5.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面ヘラナデ 体部外・内面ヘラ削り	床面	90% PL27
3	土師器	高壺	16.3	(6.0)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 环部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	床面	40% PL32
4	土師器	甕	[22.2]	(4.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外面横位のヘラ削り 内面横位の強いヘラナデ	覆土中	10%
5	土師器	甕	-	(6.6)	8.0	長石・石英・赤色粒子・磁鐵	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	20%
6	土師器	甕	-	(6.2)	7.3	長石・石英	橙	普通	体部外・内面ヘラ削り	床面	20%
7	土師器	甕	-	(1.9)	[5.0]	長石・石英・磁鐵	にぶい黄褐色	普通	体部外面ヘラ削り 底部木葉痕	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	砥石	7.5	5.5	6.0	260.97	砂岩	石皿を転用して、4面を使用	覆土下層	

第2号竪穴建物跡（第6・7図）

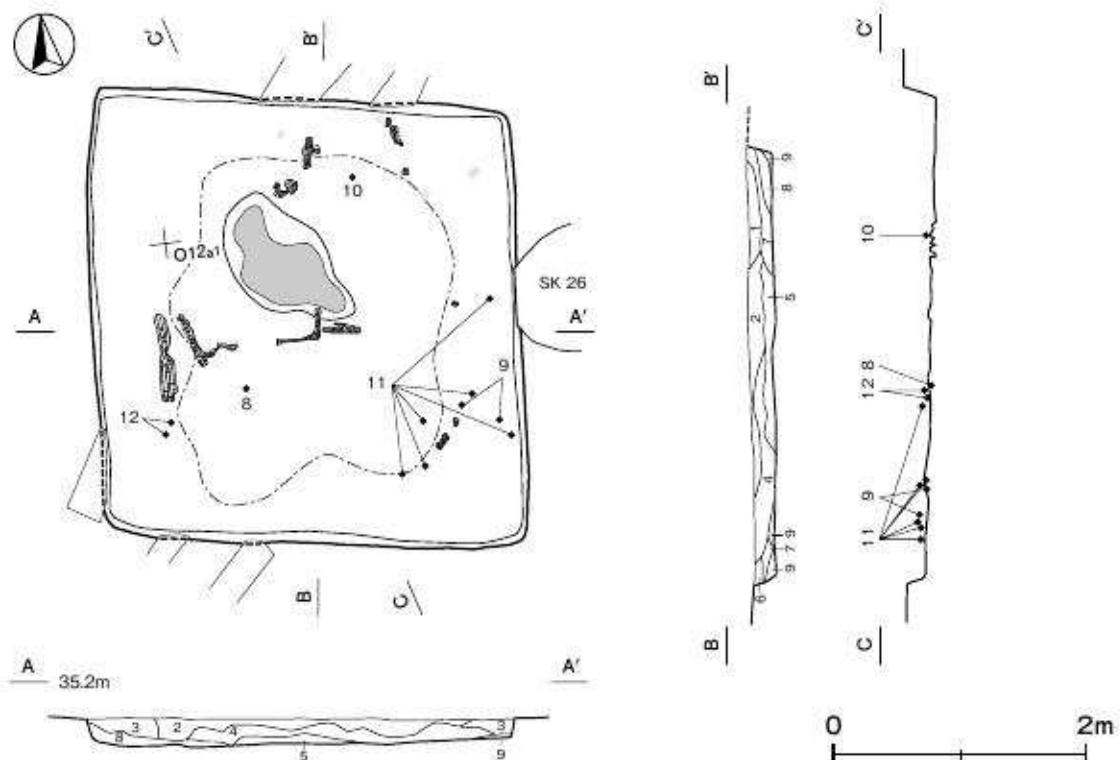
位置 調査区北西部のO12a1区、標高35.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第26号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.52m、短軸3.36mの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁は高さ15~28cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。床面で、焼土及び炭化材が、中央部と北壁際に散っている。

炉 中央部よりやや北寄りに位置している。長径127cm、短径73cmの梢円形で、深さ4cmの地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。



第6図 第2号竪穴建物跡実測図

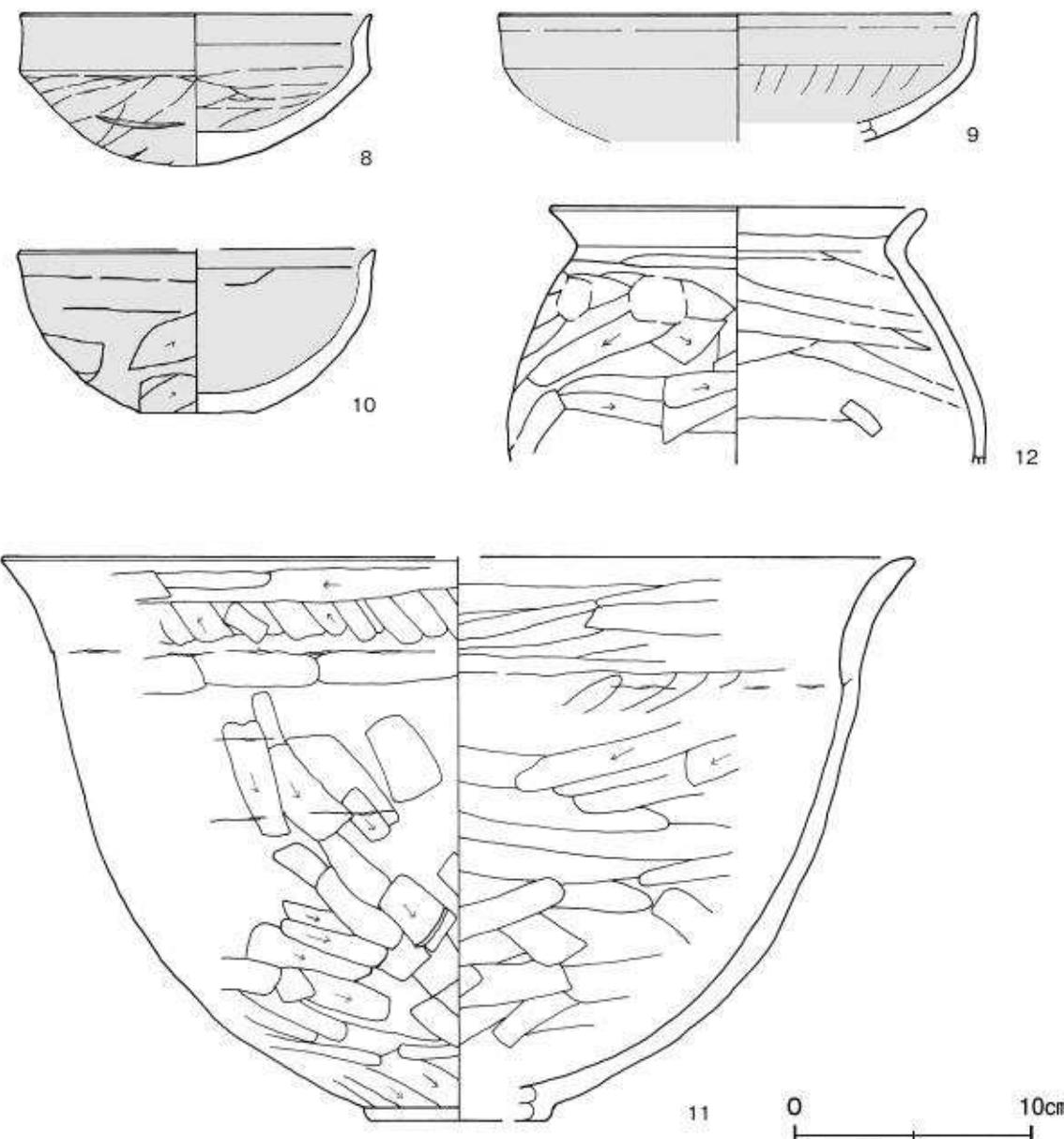
覆土 9層に分層できる。ロームブロックが多く含まれ、ブロック状に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	6 褐 色	ローム粒子中量
2 暗 暗 褐 色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	7 暗 暗 褐 色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量
3 暗 暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	8 暗 暗 褐 色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
4 暗 暗 褐 色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量	9 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
5 暗 褐 色	炭化物、ローム粒子・焼土粒子少量		

遺物出土状況 土師器片 121 点(坏 25, 梵 1, 鉢 1, 壺類 94) のほか、弥生土器片 2 点(広口壺)が出土している。8 はほぼ中央部の床面から、9 は東壁付近、10 は北側の覆土下層からそれぞれ出土している。12 は南西部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀末葉～6 世紀初頭と考えられる。炭化材及び焼土が床面から出土していることから、焼失建物である。



第7図 第2号竪穴建物跡出土遺物実測図

第2号竪穴建物跡出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
8	土師器	壺	15.0	6.4	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ 外曲削み 敵石の代わりとして利用か	床面	60% PL27
9	土師器	壺	20.0	(5.4)	-	長石・石英・磁鐵	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラ磨き	覆土下層	30% PL27
10	土師器	壺	[15.0]	6.9	[4.8]	長石・石英・磁鐵	赤	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外ヘラ削り	覆土下層	50% PL30
11	土師器	鉢	[38.4]	23.8	[7.4]	長石・石英・磁鐵	にぶい青褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 後回転ヘラ削り 体部外・内面横位のヘラ削り	覆土下層	50%
12	土師器	甕	15.8	(10.9)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外側ヘラ削り	床面	30% PL34

第3号竪穴建物跡（第8～11図 PL 3）

位置 調査区北部のO12b1区、標高35.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第317～319・321・414・415・470・473号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺7.46mの方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁は高さ42～50cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。東部及び南部の一部を除く壁下には、幅10～18cm、深さ5～11cmの壁溝が巡っている。間仕切り溝は西壁側に3条、東壁側に1条で、長さ112～132cm、幅12～22cm、深さ6～11cmである。それぞれ壁際からP2～P4・P6に向かって延び、P2に延びている溝はP2に接している。床面から、焼土及び炭化材が中央部を除いて散っており、特に北西コーナー部に顕著である。

炉 2か所。ともに北壁寄りに位置している。炉1は長径58cm、短径46cmの楕円形で、深さ3.5cmの地床炉である。炉2は長径76cm、短径58cmの楕円形で、深さ6cmの地床炉である。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説（炉1・炉2共通）

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量

ピット 7か所。P1～P4は径19～31cm、深さ53～80cmで、規模や配置から主柱穴である。土層から、P2・P3は柱痕跡と推測される。P3の覆土上層には柱が炭化した状態で確認できたため、柱材が残っている状態で焼失したと考えられる。P5は径20cm、深さ36cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。P6・P7は深さ23・29cmで、P6は間仕切り溝と関連する補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説（P1～P4・P6・P7共通）

1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	3 褐色 ロームブロック多量
2 褐色 ローム粒子多量	4 暗褐色 ローム粒子中量

貯蔵穴 南壁際の中央部に位置している。長径126cm、短径86cmの楕円形で、深さ29cmの逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

1 黑褐色 ロームブロック少量、炭化物微量	3 暗褐色 ローム粒子中量
2 黑褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量	

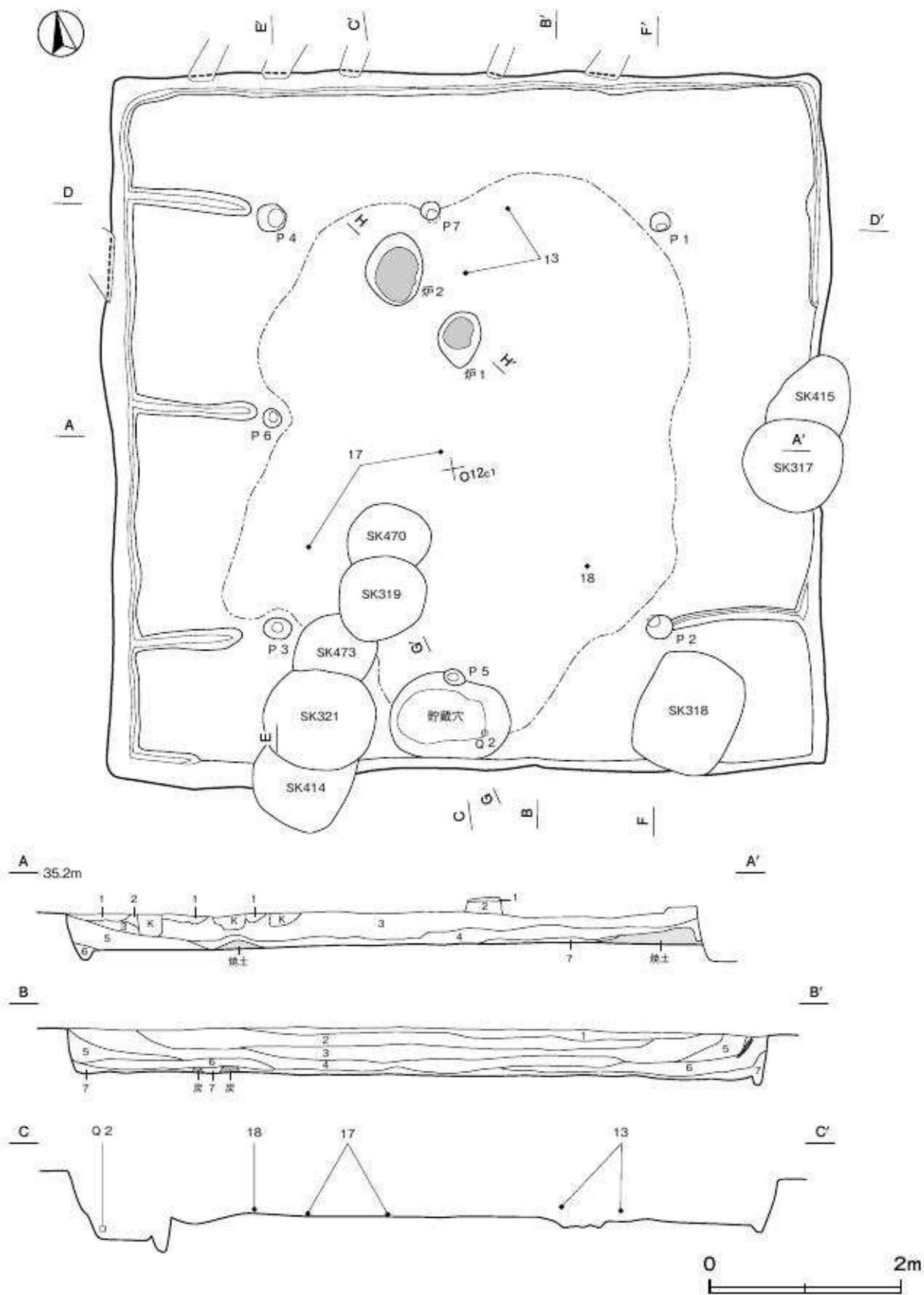
覆土 7層に分層できる。第1・2層はレンズ状の堆積であることから、自然堆積である。第3～7層は、ロームブロックや焼土ブロック、炭化材が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

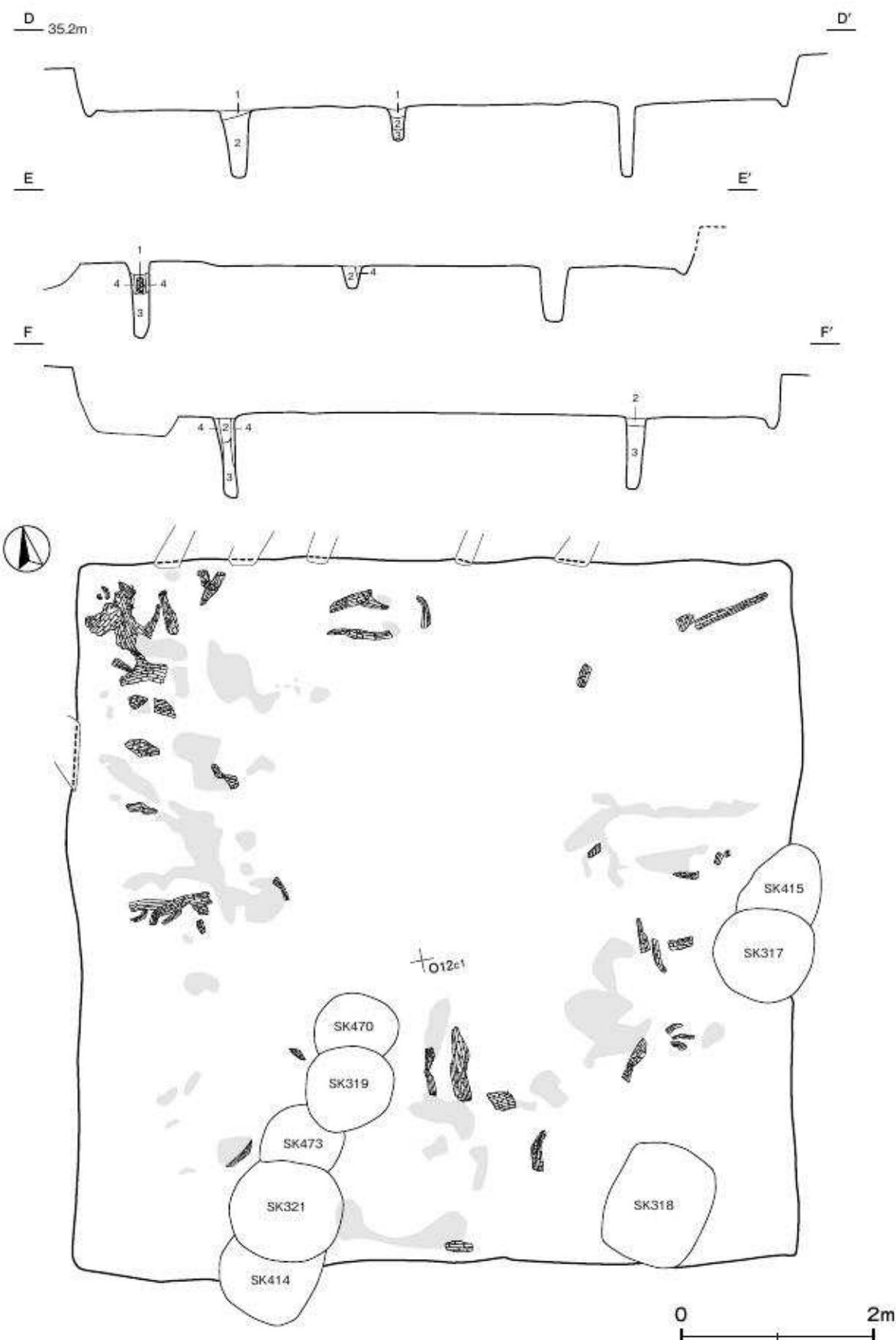
1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量	6 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 麦暗褐色 焼土ブロック・炭化材中量、ロームブロック少量
4 黑褐色 炭化材中量、ロームブロック・焼土粒子少量	

遺物出土状況 土師器片94点（壺13、甕類80、手捏土器1）、須恵器片2点（壺身、甕）、石器3点（敲石1、凹石2）が出土している。13は炉の東から割れて出土している。17は中央部床面から、14～16・19は、覆土中から出土している。Q2～Q4は貯蔵穴からの出土で、貯蔵穴の上蓋を押さえるのに利用していた可能性がある。

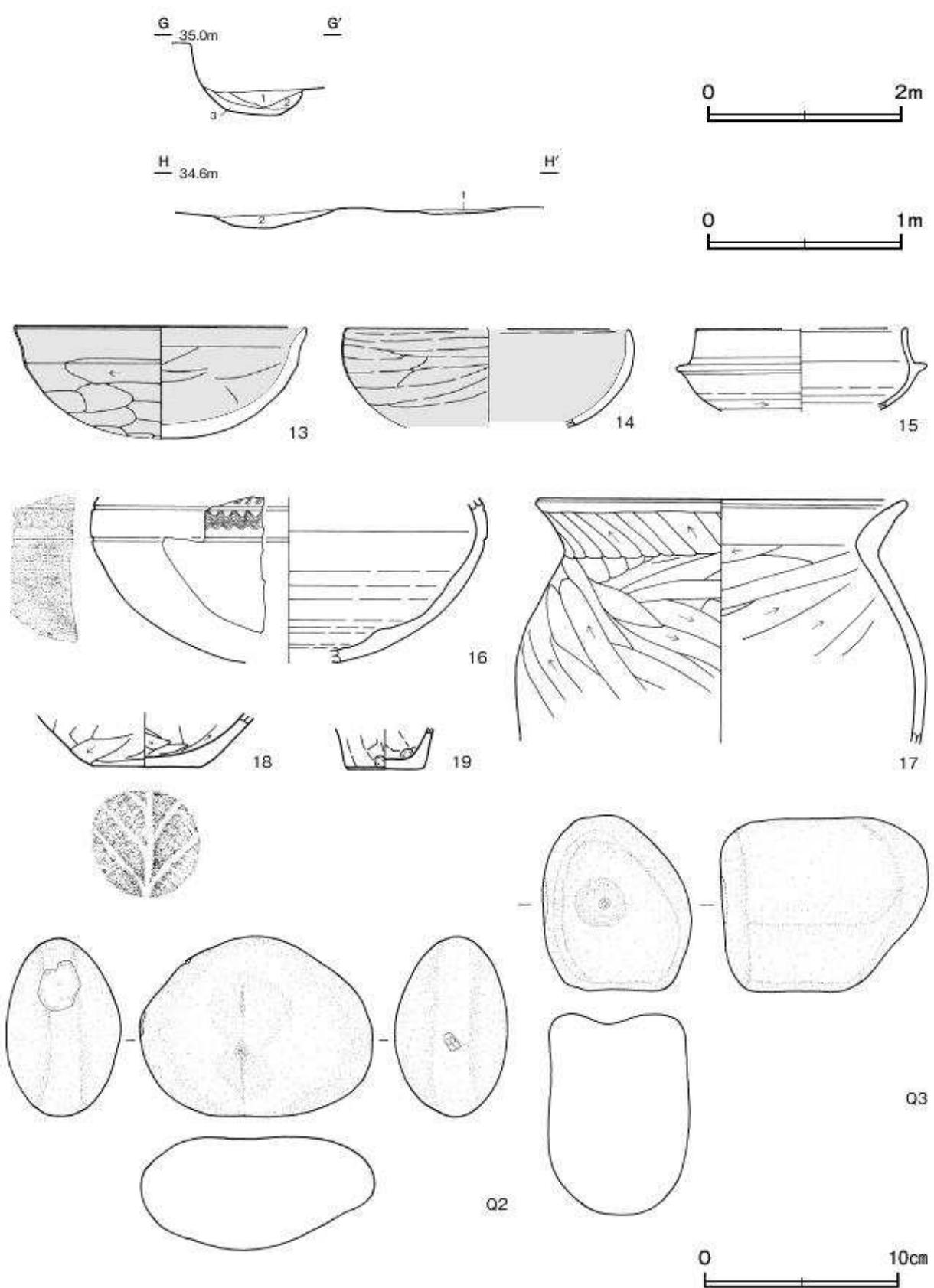
所見 時期は、出土土器から5世紀末葉～6世紀初頭と考えられる。炭化材及び焼土が床面から出土していることから、焼失建物である。



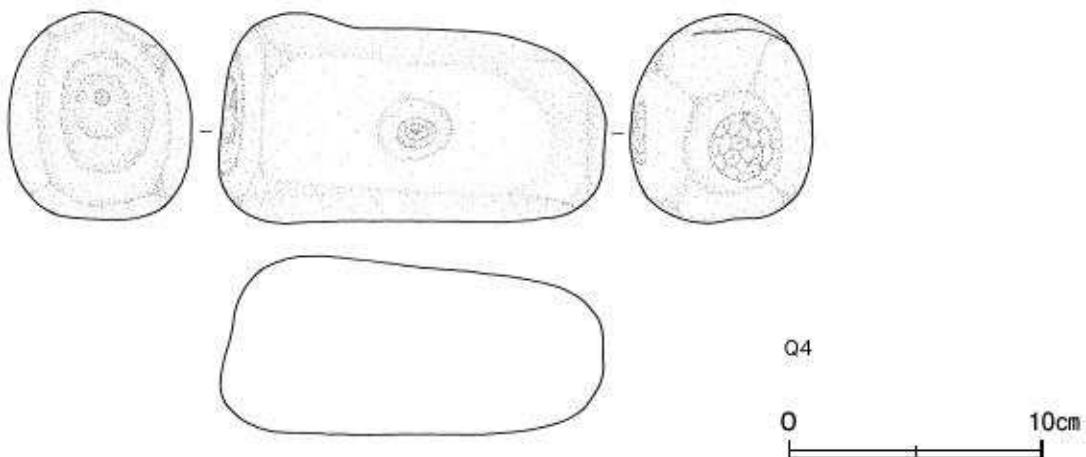
第8図 第3号竪穴建物跡実測図(1)



第9図 第3号竪穴建物跡実測図(2)



第10図 第3号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第11図 第3号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3号竪穴建物跡出土遺物観察表（第10・11図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
13	土師器	壺	14.8	5.8	-	長石・石英・雲母・鐵礫	明褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り	覆土下層	60%
14	土師器	壺	[14.5]	(5.1)	-	長石・石英・黒色鉢子	明褐色	普通	外・内面ヘラ削り後ヘラナデ	覆土中	30%
15	須恵器	壺身	[10.8]	(4.3)	-	長石・石英	灰	普通	外・内面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り	覆土中	10% 東海産
16	須恵器	甌	-	(8.6)	-	長石・石英・黒色鉢子・鐵礫	黄灰	普通	外側中挖波状文 内面ロクロナデ	覆土中	15% 東海産
17	土師器	甌	18.7	(12.6)	-	長石・石英・黒色鉢子・鐵礫	にぶい黄滑	普通	口縁部外面横波のヘラ削り 体部外・内面ヘラ削り	床面	20%
18	土師器	甌	-	(2.8)	5.6	長石・石英	にぶい滑	普通	外・内面ヘラ削り 底部木葉痕	床面	5%
19	土師器	手提土器	-	(2.0)	[4.0]	長石・石英・赤色鉢子	明赤褐色	普通	体部外・内面指頭痕	覆土中	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	敲石	9.3	12.2	5.9	883.3	石英斑岩	両側縦敲打痕	貯蔵穴下層	
Q3	凹石	9.1	7.8	10.3	1207.9	安山岩	表面凹痕	貯蔵穴	PL38
Q4	凹石	8.3	15.4	5.8	1487.1	安山岩	表面・左側縦凹痕 右側縦敲打痕	貯蔵穴	PL38

第4号竪穴建物跡（第12・13図 PL3）

位置 調査区北西部のQ11b7区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1・11号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺5.48mの方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁は高さ32~40cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅12~17cm、深さ2~10cmの壁溝がほぼ全周している。炉の東側及び西壁際の床面から、炭化材が出土している。

炉 北壁寄りに位置している。長径69cm、短径48cmの橢円形で、深さ4cmの地床炉である。炉床面は、火熱により赤変硬化している。

炉土層解説

1 黒褐色 売土粒子中量、炭化物・ローム粒子少量

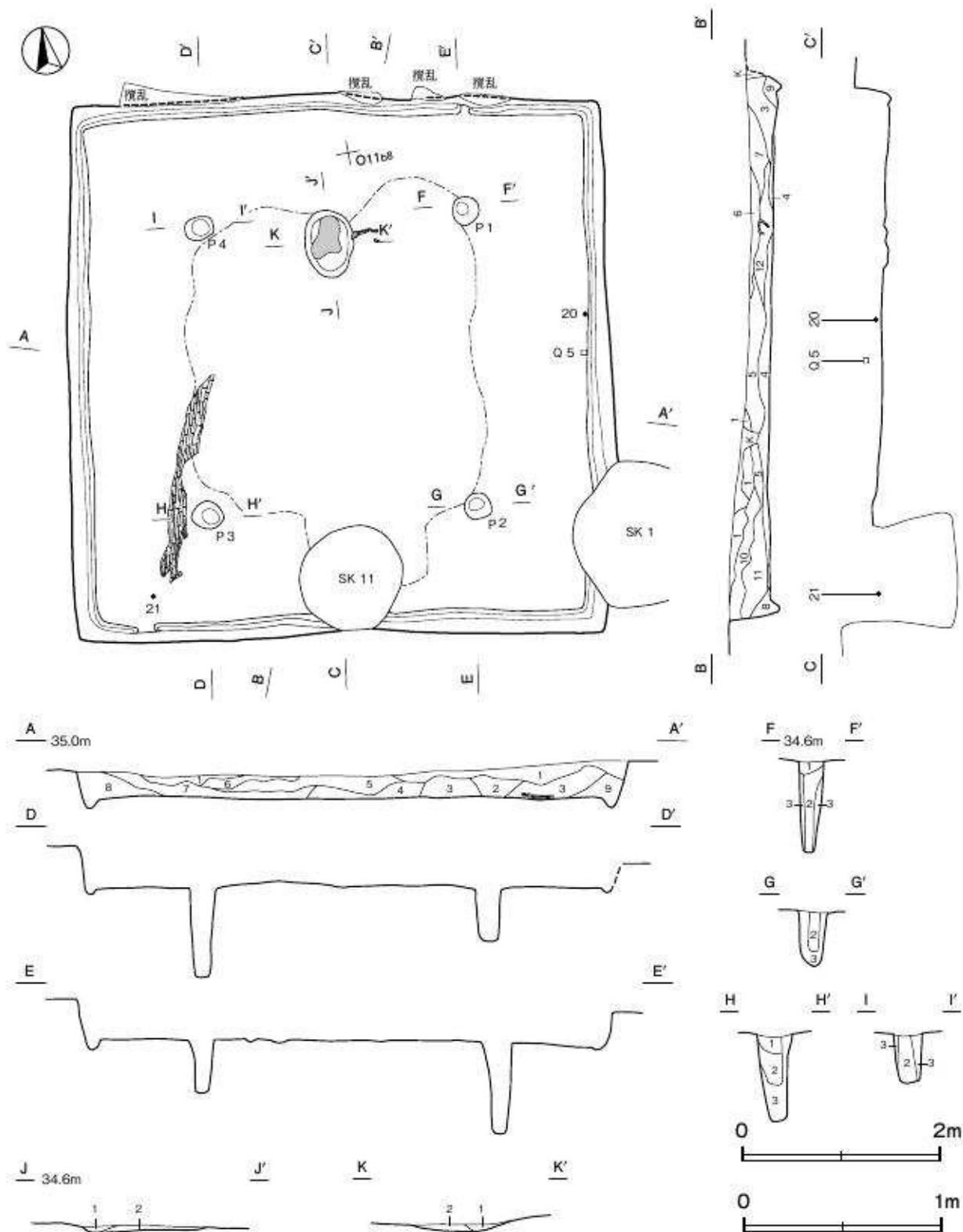
2 赤褐色 売土粒子多量、炭化粒子少量、ロームブロック微量

ピット 4か所。P 1～P 4は径24～33cm、深さ52～93cmで、規模や配置から主柱穴である。土層から、P 1・P 2・P 4は柱痕跡と推測される。

ピット土層解説(全ピット共通)

1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子多量

3 褐色 ロームブロック多量



第12図 第4号竖穴建物跡実測図

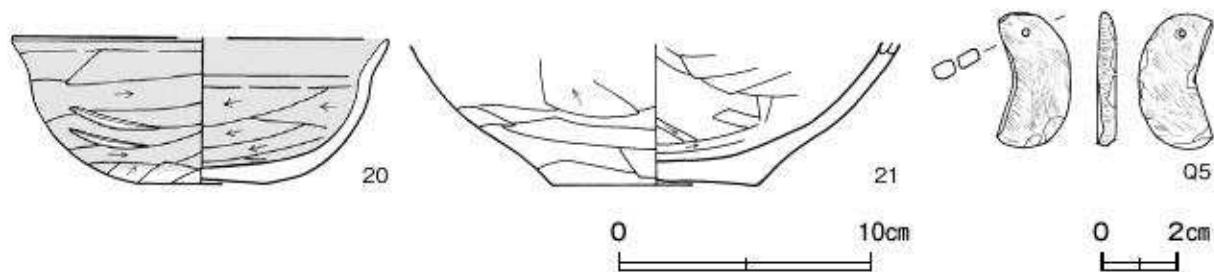
覆土 12層に分層できる。ブロック状の不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	7 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化材微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、炭化物少量	8 暗褐色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	9 黒褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量
4 暗褐色	炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量
5 褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	11 暗褐色	炭化粒子中量・ロームブロック少量
6 黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片 55点（坏 14, 壺類 41）、石製品 1点（勾玉）が出土している。20は東壁際の覆土下層、Q5は覆土中層、21は南壁際の床面から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀末葉～6世紀初頭と考えられる。炭化材及び焼土が床面から出土していることから、焼失建物と考えられる。



第13図 第4号竪穴建物跡出土遺物実測図

第4号竪穴建物跡出土遺物観察表（第13図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
20	土師器	坏	[14.6]	5.8	5.0	長石・石英・針状気泡	褐	普通	口縁部外・内面横ナメ 体部外・内面ヘラ削り	覆土下層	40%
21	土師器	壺	-	(5.6)	8.0	長石・石英・半色粒子・細繊	にぶい赤褐	普通	外・内面ヘラ削り 底部ヘラ削り	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q5	勾玉	3.5	1.9	0.5	(6.09)	滑石	全面研磨調整 裏面穿孔による欠け 孔径0.18cm	覆土中層	PL39

第5号竪穴建物跡（第14～16図 PL3・4）

位置 調査区北西部のN11i5区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第21・23号土坑を掘り込んでいる。

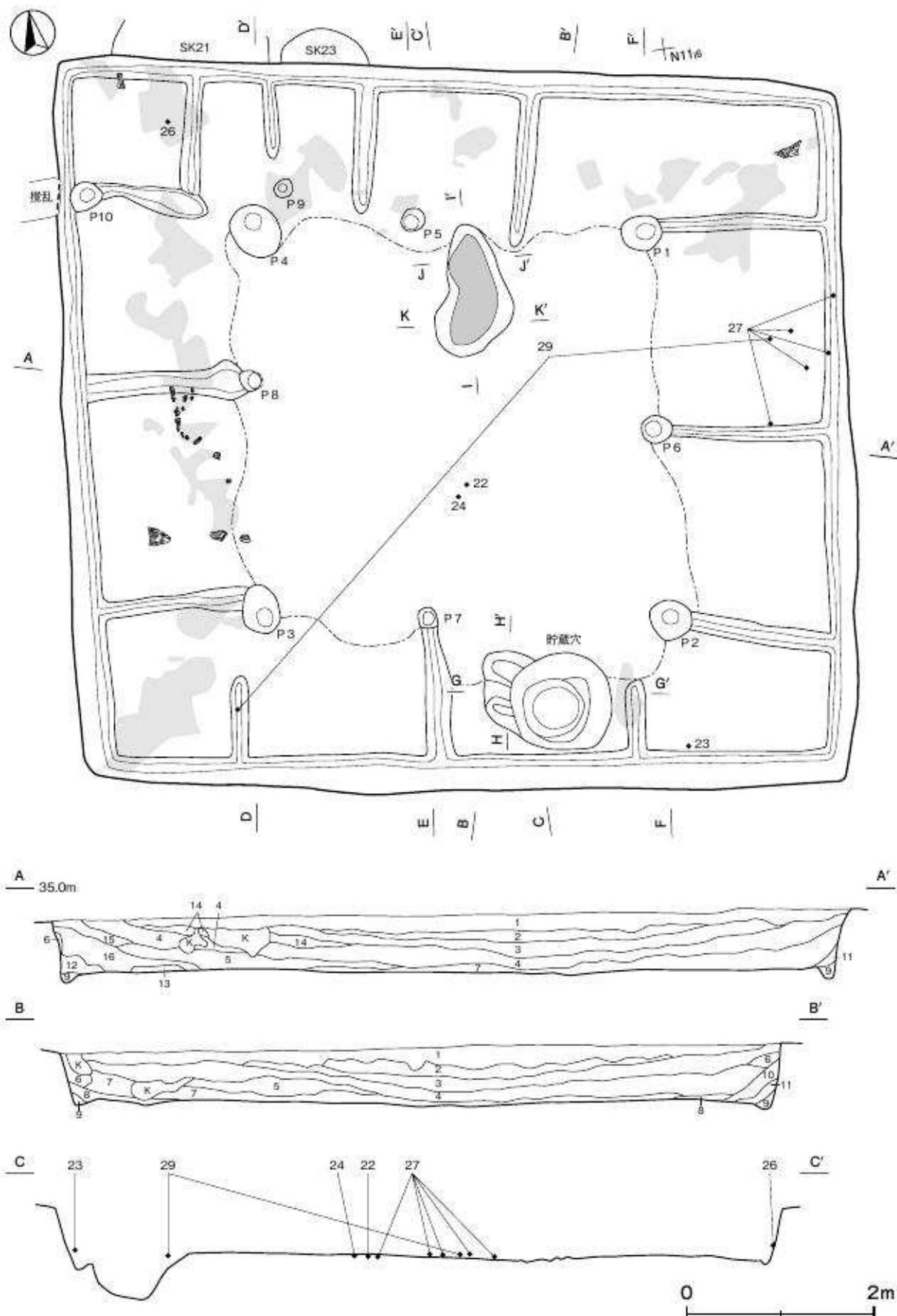
規模と形状 長軸8.30m、短軸7.60mの方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁は高さ40～74cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅12～20cm、深さ4～10cmの壁溝が全周している。間仕切り溝は13か所あり、各壁から3～4条が、中央部に向かって並行に配置されている。長さ81～175cm、幅11～43cm、深さ2～18cmである。焼土及び炭化材が壁際床面から出土している。

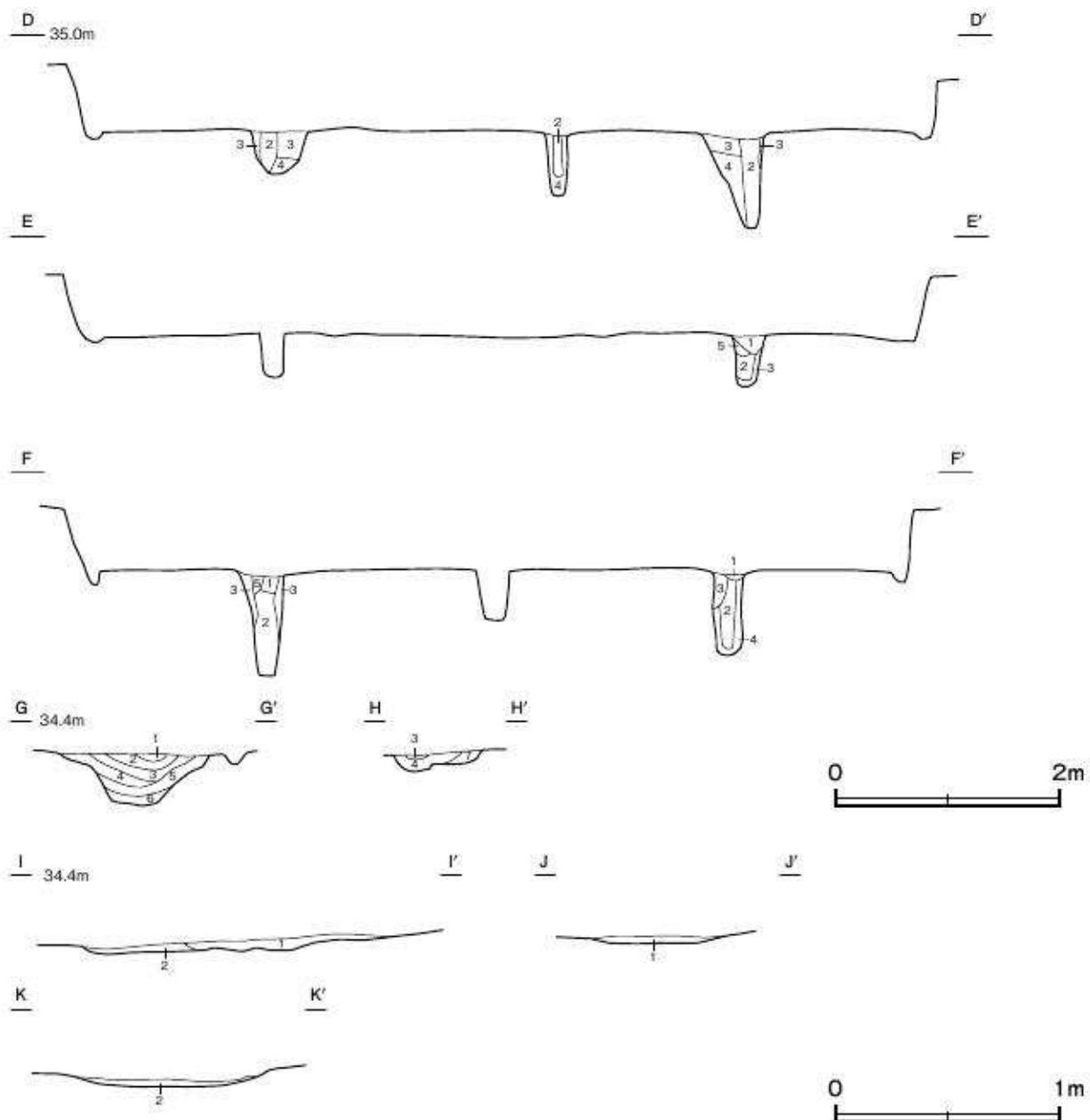
炉 北壁寄りに位置している。長径141cm、短径80cmの楕円形で、深さ5cmの地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量	2 暗赤灰色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量
--------	-----------------------	--------	---------------------------



第14図 第5号竪穴建物跡実測図(1)



第15図 第5号堅穴建物跡実測図(2)

ピット 10か所。P 1～P 4は径37～60cm、深さ40～90cmで、規模や配置から主柱穴である。土層から、P 1・P 2・P 4は柱痕跡と推測される。P 5～P 8は径20～33cm、深さ44～53cmで、形状や位置から、補助柱穴と考えられる。P 9・P 10は性格不明である。

ピット土層解説 (P 1～P 5・P 8共通)

1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量	4 暗褐色 ローム粒子多量
2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色 ロームブロック少量
3 褐色 ロームブロック多量	

貯蔵穴 南壁際の、やや東寄りに位置している。長径138cm、短径105cmの橢円形で、深さ48cm、断面形は擂鉢状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

- 5 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

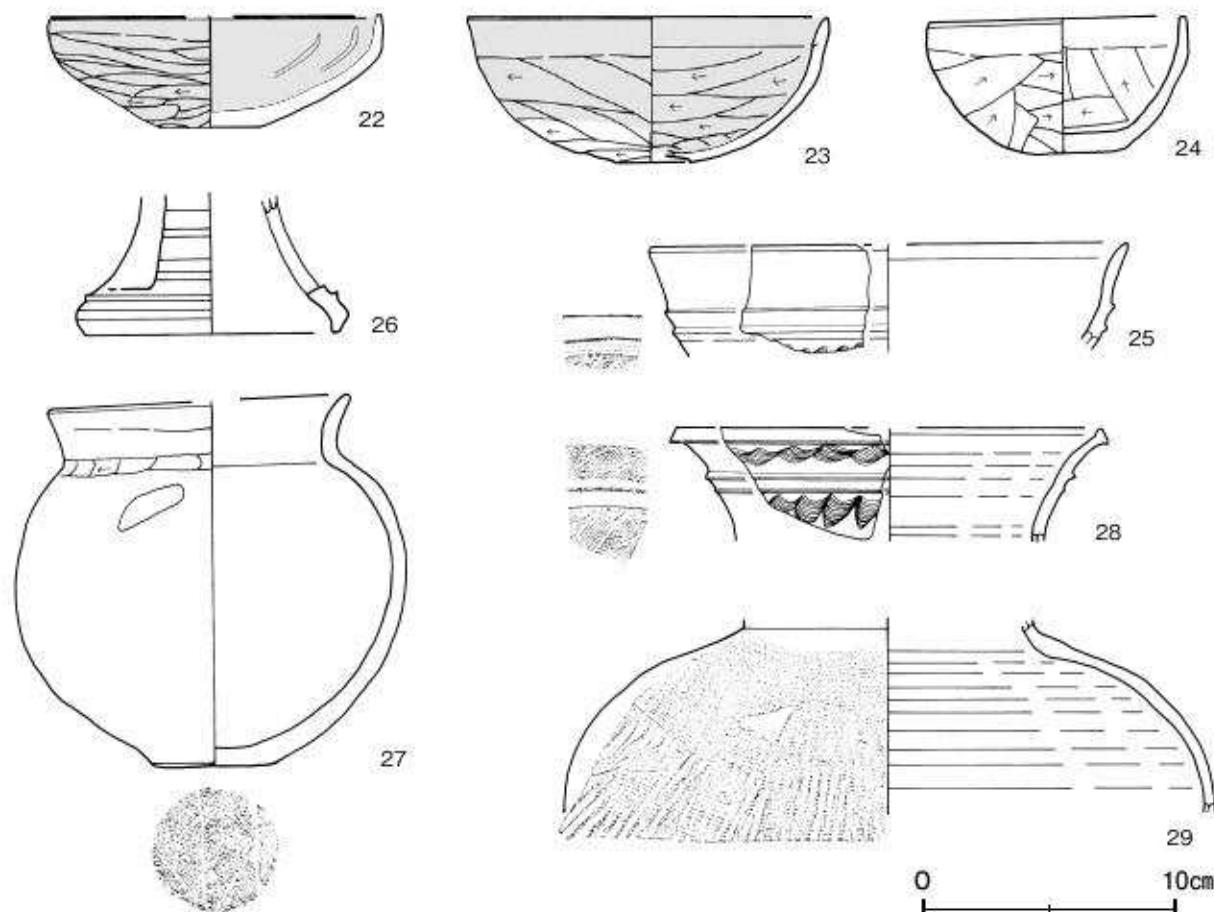
覆土 16層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 12 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 13 暗褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 6 褐色 ロームブロック中量 | 14 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土粒子少量 | 15 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 16 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片417点（壺75、椀1、壺1、甕類340）、須恵器片7点（高壺2、燧2、甕類3）、土製品1点（不明）、鉄製品1点（不明）が、覆土の西側の覆土上層から中層を中心に散乱した状態で出土している。貯蔵穴からは、土師器片46点（壺11、甕類35）が出土している。22・24は、中央部の床面から正位の状態で近接して出土している。23は南壁際、26は北西コーナー部の焼土中から出土している。27は、東壁際から出土した破片が接合していることから、破碎された後に埋土とともに投棄されたと考えられる。29は、東壁付近と南壁付近から離れて出土したものが接合した。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉と考えられる。炭化材及び焼土が床面から出土していることから、焼失建物である。



第16図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図

第5号竪穴建物跡出土遺物観察表（第16図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
22	土師器	壺	[13.0]	4.4	4.0	長石	赤褐色	普通	口縁部横ナデ・体部外面ヘラ削り・内面ヘラ磨き	床面	70%
23	土師器	壺	14.2	5.7	3.1	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ・体部外・内面ヘラ削り	覆土下層	70%
24	土師器	壺	10.2	5.4	5.0	長石・石英・赤色粒子・斑雜	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ・体部外・内面ヘラ削り	床面	90% PL30
25	須恵器	高壺	[19.0]	(4.3)	-	長石・石英・斑雜	黒褐色	良好	外・内面ロクロナデ・外面波状文	覆土中	5% 東道窯場 陶器産業 PL32
26	須恵器	高壺	-	(5.5)	[10.0]	長石	灰	良好	ロクロナデ・透かし孔1か所既存	覆土下層	10% 陶器産業 PL32
27	土師器	壺	[11.7]	14.7	5.0	長石・石英・斑雜	にぶい橙	普通	口縁部下部ヘラ削り・底部木葉模	床面	50% PL32
28	須恵器	壺	[16.8]	(4.5)	-	長石・黒色粒子	灰	普通	口縁部外側沈線区画・上区画10条1単位・下区画12条1単位の波状文	覆土中	5% 東道窯場 29と同一の可能性
29	須恵器	壺	-	(7.8)	-	長石・石英・斑雜	黄灰	普通	体部外側横位の平行叩き・横位のカキ目・内面ロクロナデ	覆土下層	10% 東道窯場 28と同一の可能性

第6号竪穴建物跡（第17・18図 PL 4）

位置 調査区北西部のO11a1区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.53m、短軸5.34mの方形で、主軸方向はN-47°Wである。壁は高さ56~58cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、壁際まで全体が踏み固められている。北西から南東にかけての壁下には、幅14~20cm、深さ8cmの壁溝が巡っている。

炉 北西壁寄りに位置している。長径89cm、短径58cmの梢円形で、深さ4cmの地床炉である。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量

ピット 4か所。P1~P4は径23~48cm、深さ53~67cmで、規模や配置から主柱穴である。土層から、P1・P2は柱痕跡と推測される。

ピット土層解説（全ピット共通）

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量	3 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量	

貯蔵穴 南東壁中央部に位置している。長径92cm、短径56cmの梢円形で、深さ24cmである。底面は平坦で、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量	3 褐色 ローム粒子多量
2 黑褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物少量	

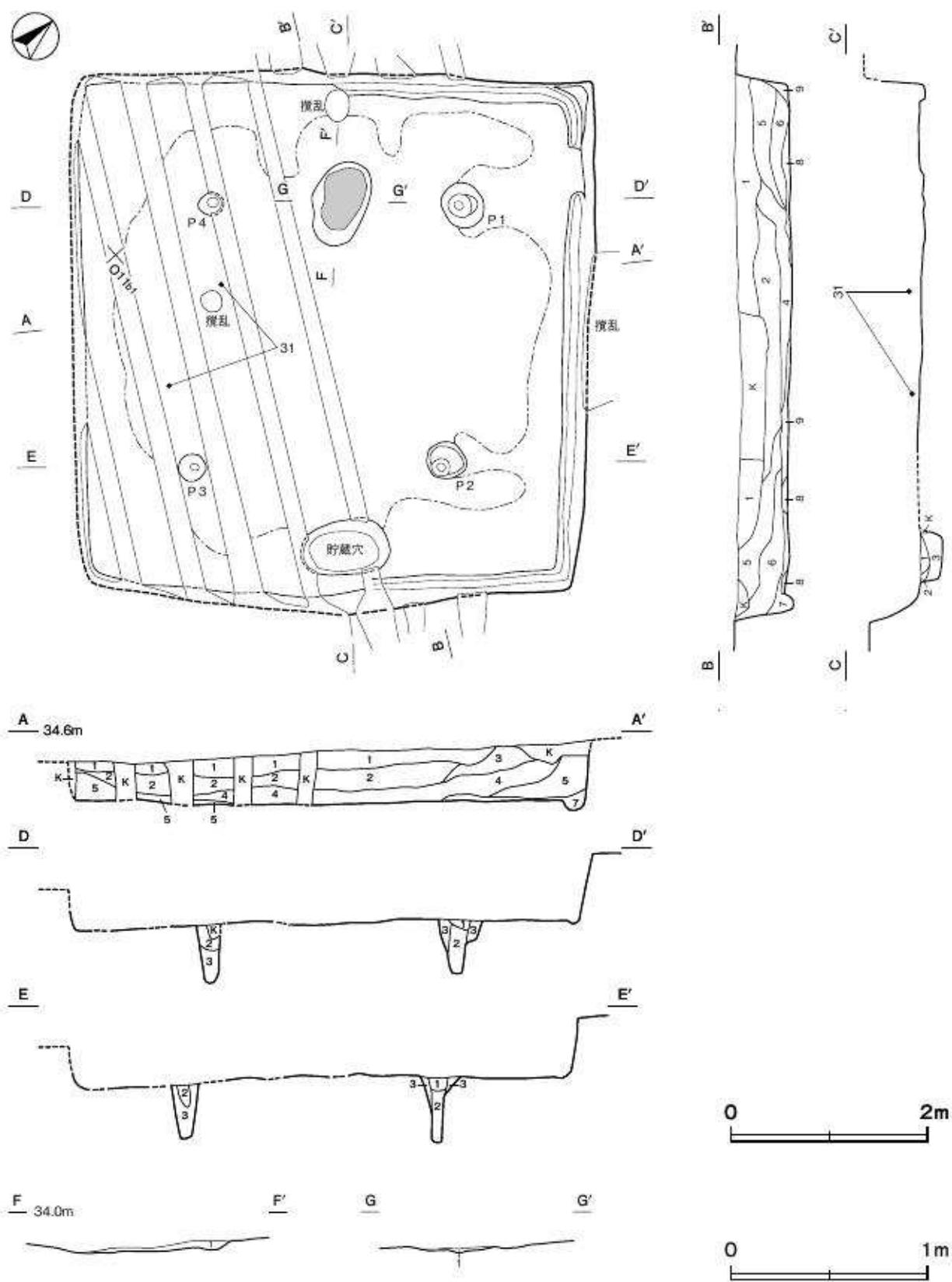
覆土 9層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

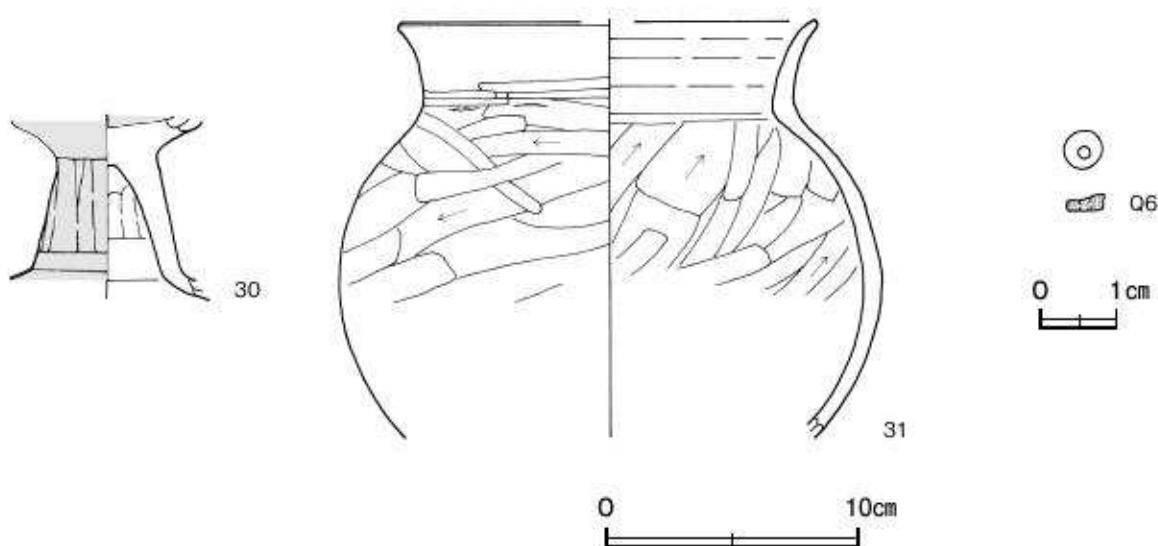
1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量	6 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子少量	7 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物少量
3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗赤褐色 烧土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量
4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量	9 褐色 ロームブロック・焼土粒子中量、炭化物少量
5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子少量	

遺物出土状況 土師器片111点（壺31、高壺2、甕類78）、須恵器片3点（甕類）、石製品1点（臼玉）が出士している。31は、南西壁寄りの覆土下層から出土した破片が接合している。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉～末葉と考えられる。



第17図 第6号堅穴建物跡実測図



第18図 第6号竪穴建物跡出土遺物実測図

第6号竪穴建物跡出土遺物観察表（第18図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
30	土師器	高壺	-	(7.2)	-	長石・石英・赤色鉱物	赤	普通	脚部外面ヘラナデ 内面ナデ	覆土中	20% PL32
31	土師器	甕	[16.4]	(16.5)	-	長石・石英・無機	に赤い斑模	普通	口縁部横ナデ 体部外・内面ヘラ削り	覆土下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	臼玉	0.5	0.5	0.2	0.07	滑石	全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径0.17cm	覆土中	PL39

第7号竪穴建物跡（第19図）

位置 調査区北西部のO11c5区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第41号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南半部が搅乱を受けており、北西・南東軸は4.66m、北東・南西軸は3.80mしか確認できなかった。方形ないしは長方形で、主軸方向はN-30°-Wと推定される。壁は高さ10~28cmで、ほぼ直立している。

床 平坦である。確認できた床からは、焼土が部分的に検出された。

ピット 3か所。径53~68cm、深さ8~21cmで、性格は不明である。

土層解説（全ピット共通）

1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 2 褐色 ローム粒子多量

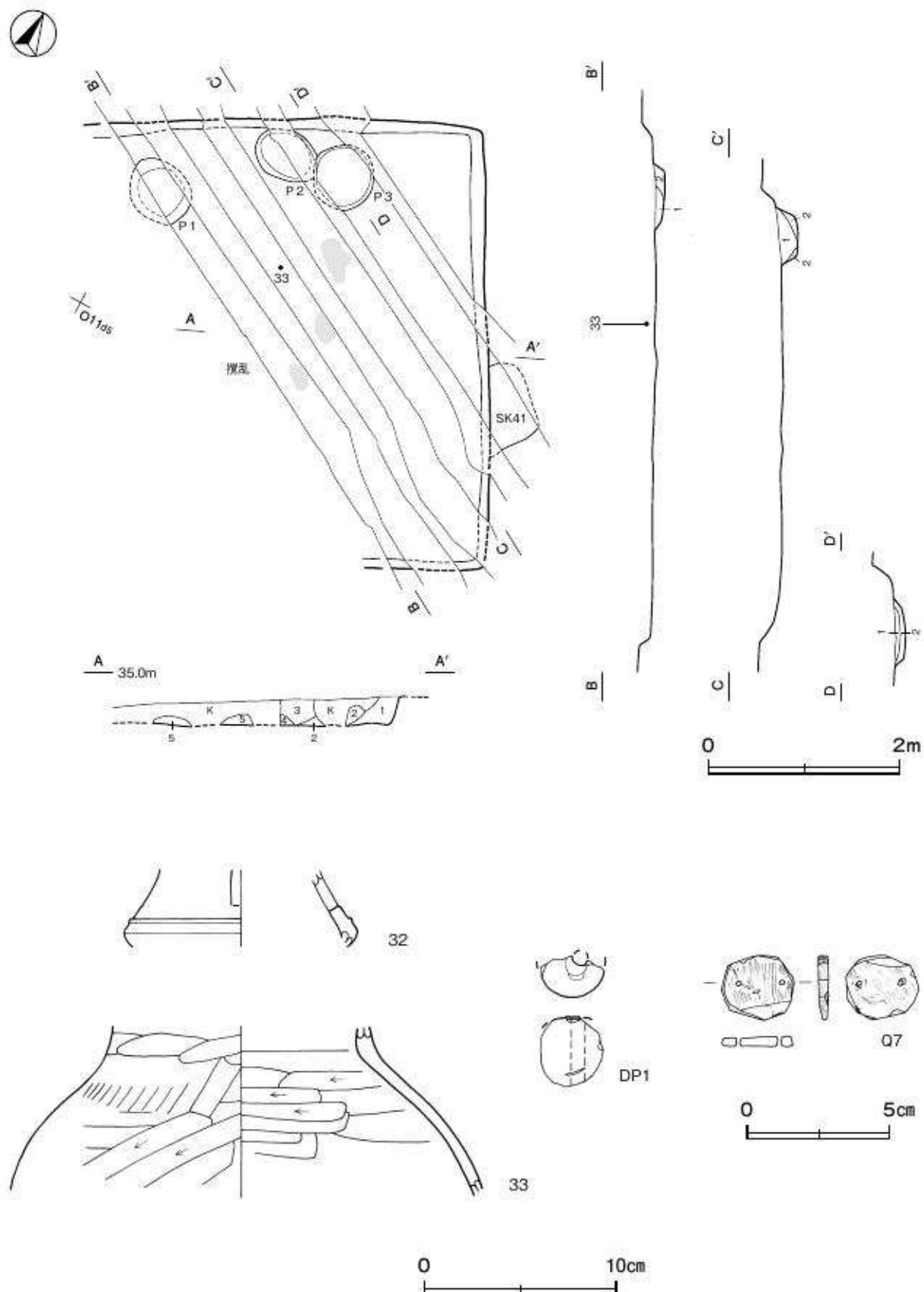
覆土 5層に分層できる。搅乱のため、堆積状況は不明である。

土層解説

1 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化物微量	5 黒褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片112点（壺14、甕類98）、須恵器片5点（高壺1、甕類4）、土製品1点（土玉）、石製品1点（有孔円板）が出土している。32は覆土中から、33は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉～末葉と考えられる。



第19図 第7号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第7号竪穴建物跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
32	須恵器	高杯	-	(4.0)	-	長石・石英	黄灰	普通	外・内面クロナデ 透かし孔1か所遺存	覆土中	10%陶器座
33	土師器	甕	-	(8.9)	-	長石・石英 褐色粒子 赤色粒子・難燃	橙	普通	体部外・内面ヘラ削り	覆土下層	10%
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調		特徴	出土位置	備考
DP 1	土玉	[35]	(3.6)	[0.8]	(21.19)	長石・石英	明赤褐	ナデ	一方に向かう穿孔	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質		特徴		出土位置	備考
Q 7	有孔円板	2.22	2.56	0.38	391	滑石	全面研磨調整 孔2.2cm 孔径0.18cm			覆土中	PL40

第8号竪穴建物跡（第20・21図）

位置 調査区北西部のO11e9区、標高35.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第291・314号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.44m、短軸5.26mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁は高さ9~17cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 2か所。ほぼ中央部に1か所、北壁寄りに1か所ある。確認できた規模は長径39~48cm、短径23~28cmで、炉1は楕円形、炉2は円形と推定される。深さ4~6cmの地床炉で、炉床面は火熱により赤変硬化している。

炉土層解説

1 明赤褐色 焼土ブロック多量

2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量

ピット 9か所。P 1~P 4は径21~29cm、深さ64~95cmで、規模や配置から主柱穴である。P 5は深さ25cmで、南壁際の中央部に位置することから、出入口施設に伴うピットである。P 6~P 8は径22~37cm、深さ3~25cmで、性格は不明である。P 9はP 3の北に近接しており、補助的な柱穴と考えられる。

ピット土層解説（全ピット共通）

1 黒褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子少量

4 暗褐色 ローム粒子中量
5 褐色 ローム粒子中量

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積であることから、自然堆積である。

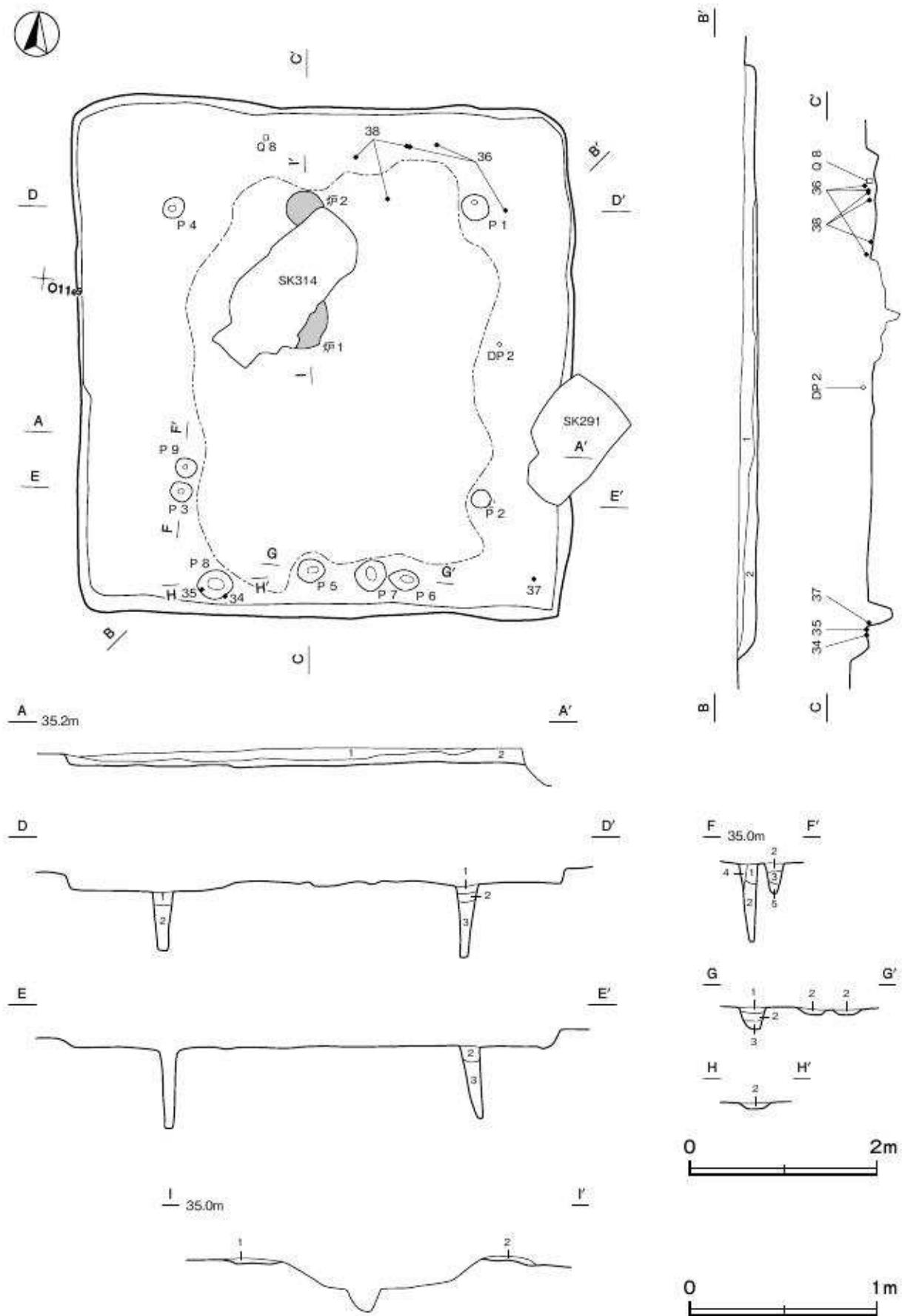
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

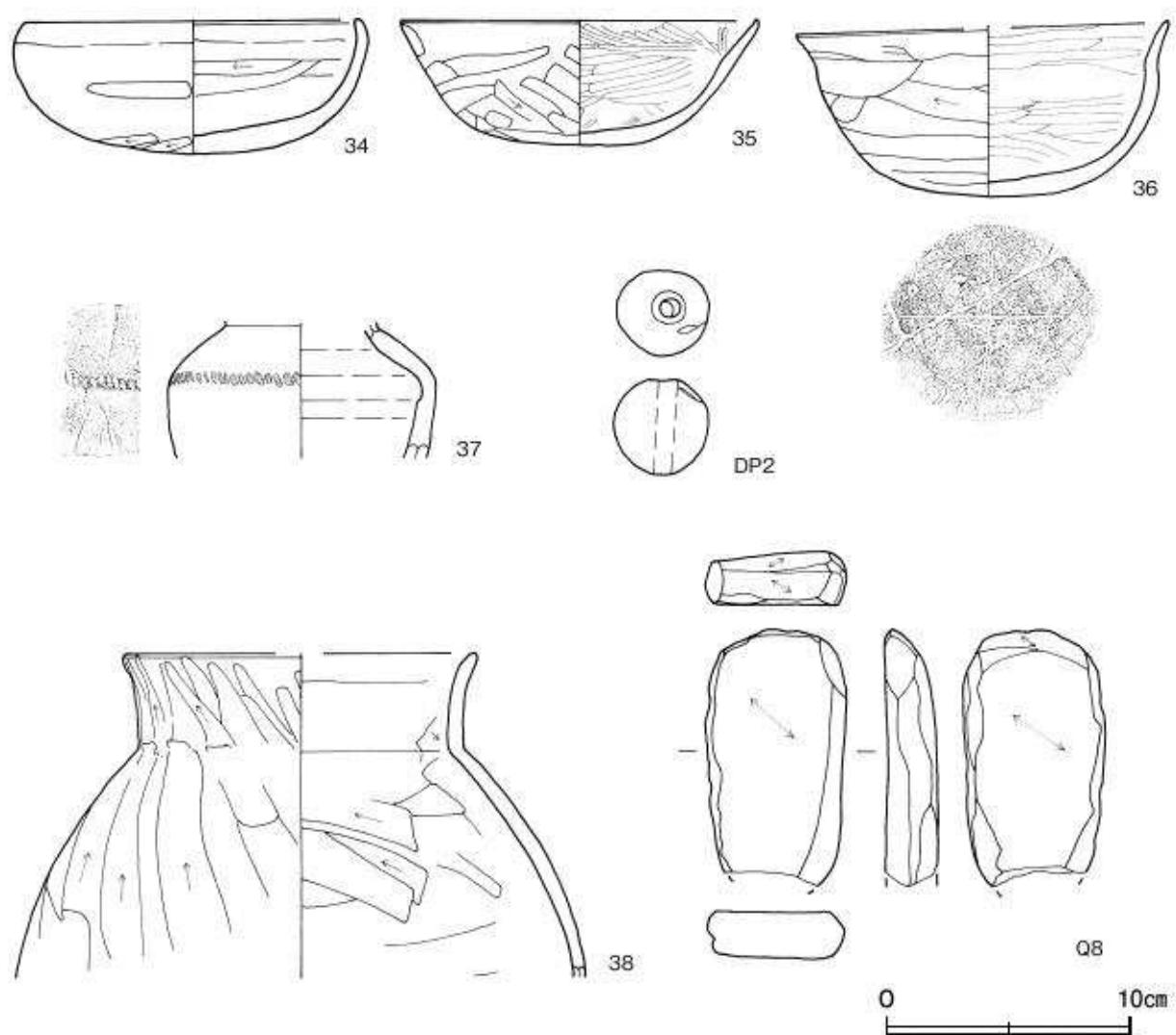
2 極暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片167点（壺31、甕類136）、須恵器片1点（甕）、土製品1点（土玉）、石器1点（砥石）が出土している。34・35は南壁側から割れた状態で、36・38は北側で散らばった状態でそれぞれ出土している。37は、南東コーナー部の床面から出土している。DP 2は、東部の覆土下層から出土している。Q 8は、北壁付近の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀末葉と考えられる。



第20図 第8号竪穴建物跡実測図



第21図 第8号竪穴建物跡出土遺物実測図

第8号竪穴建物跡出土遺物観察表（第21図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
34	土師器	壺	13.8	5.4	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部横テテ 体部外・内面ヘラ削り	床面	90% PL27
35	土師器	壺	14.7	5.2	-	長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラ削り後ヘラ磨き	床面	70% PL27
36	土師器	壺	[15.1]	7.3	-	赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部線刻あり	覆土下層	50% PL27
37	須恵器	甌	-	(5.6)	-	長石・石英・磁鐵	暗灰黄	普通	ロクロナテ 例点文	床面	10% 東海産
38	土師器	甌	[14.4]	(13.3)	-	長石・石英・磁鐵	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナナフシヘラ削り 体部外・内面ヘラ削り	覆土下層	10%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 2	土玉	3.8	3.9	0.8	47.4	長石・石英	橙	ナテ 一方向からの穿孔	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 8	磁石	(10.6)	5.8	2.2	(211.4)	砂岩	磁面4面	覆土下層	

第9号竪穴建物跡（第22・23図）

位置 調査区北西部のN10g9区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.58m、短軸3.98mの長方形で、主軸方向はN-110°-Wである。壁は高さ8~16cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、西壁際の一部が硬化している。

炉 中央部のやや西壁寄りに位置している。長径57cm、短径36cmの橢円形で、深さ5cmの地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 ローム粒子多量

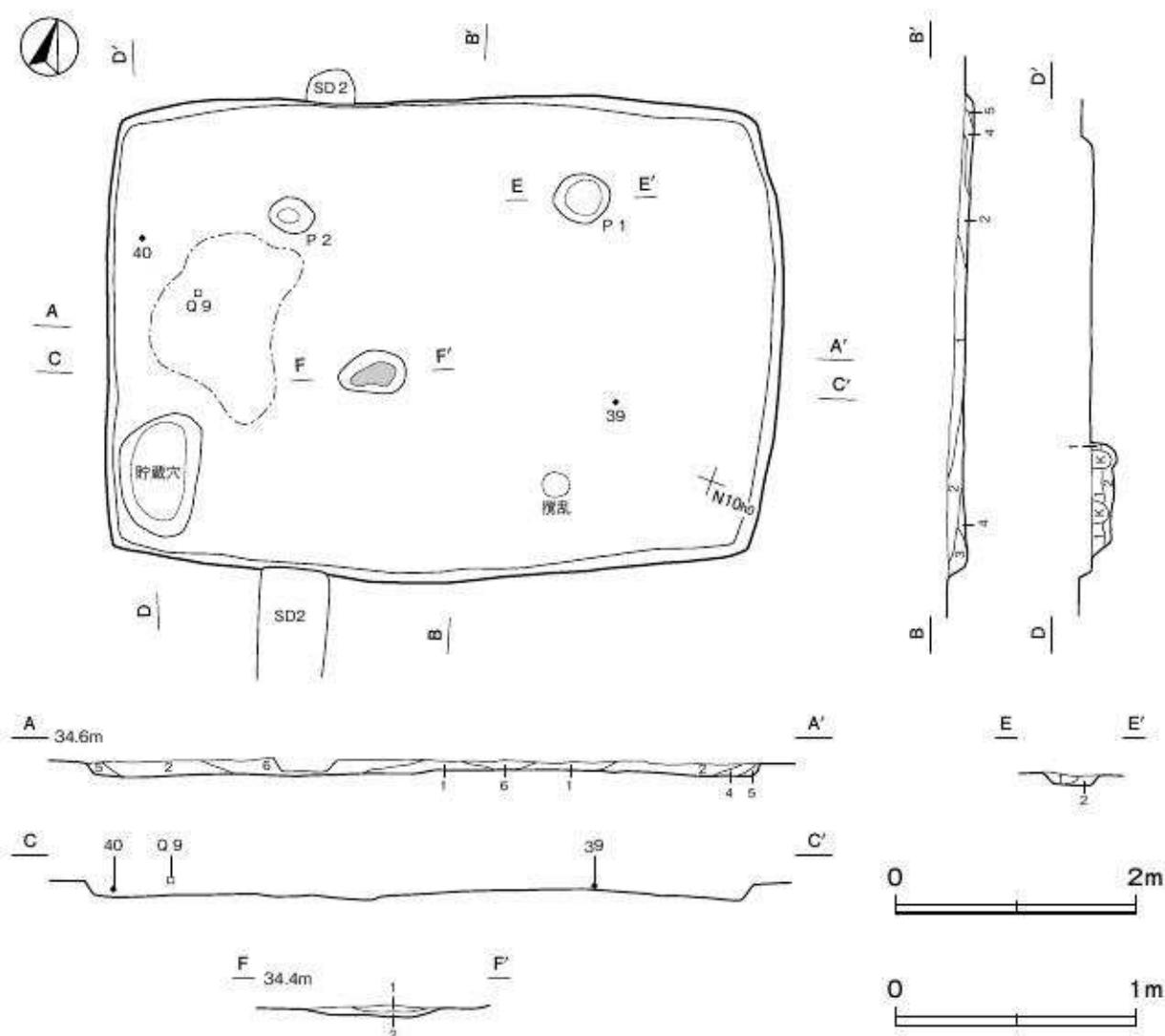
2 暗褐色 ローム粒子中量

ピット 2か所。P-1・P-2は径30~48cm、深さ8~10cmで、性格は不明である。

ピット土層解説 (P-1)

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ローム粒子中量



第22図 第9号竪穴建物跡実測図

貯蔵穴 南西コーナー部に位置する。長径 102cm、短径 67cm の梢円形である。深さ 21cm で、底面は平坦で、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子少量

覆土 6 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれ、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量

4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

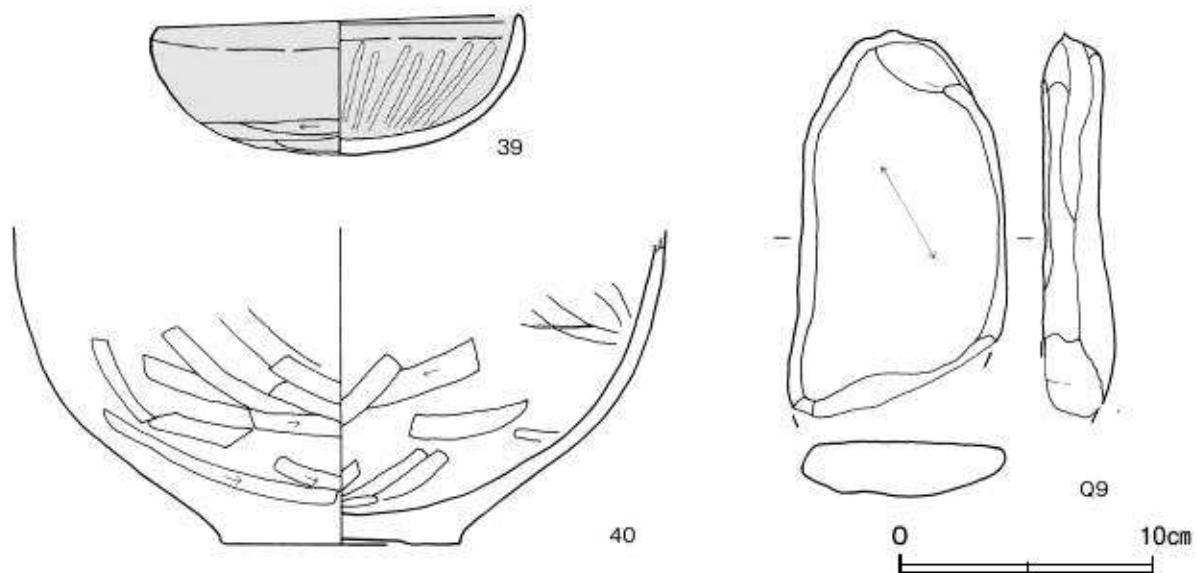
5 褐色 ローム粒子多量

3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

6 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片 33 点(環 9, 壺類 24), 石器 1 点(砥石)が出土している。39 は床面から正位の状態で、40 は西壁際から逆位の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀末葉と考えられる。



第 23 図 第 9 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 9 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 23 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
39	土師器	壺	14.4	5.5	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ・体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	30% PL27
40	土師器	壺	-	(12.5)	9.2	長石・石英・磁鐵	にぶい黄褐	普通	体部外・内面下位ヘラ削り	覆土下層	20%
Q9	石器	砥石	(15.3)	8.7	28	(480.6)	砂岩	砥面1面		覆土上層	

第 10 号竪穴建物跡 (第 24・25 図)

位置 調査区北西部の N10c6 区、標高 34.0 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 西半部の大半が調査区域外へ伸びているため、南北軸 5.87 m、東西軸 3.35 m しか確認できなかつた。方形と推定され、推定主軸方向は N - 2° - E である。壁は高さ 20 ~ 38cm で、直立している。

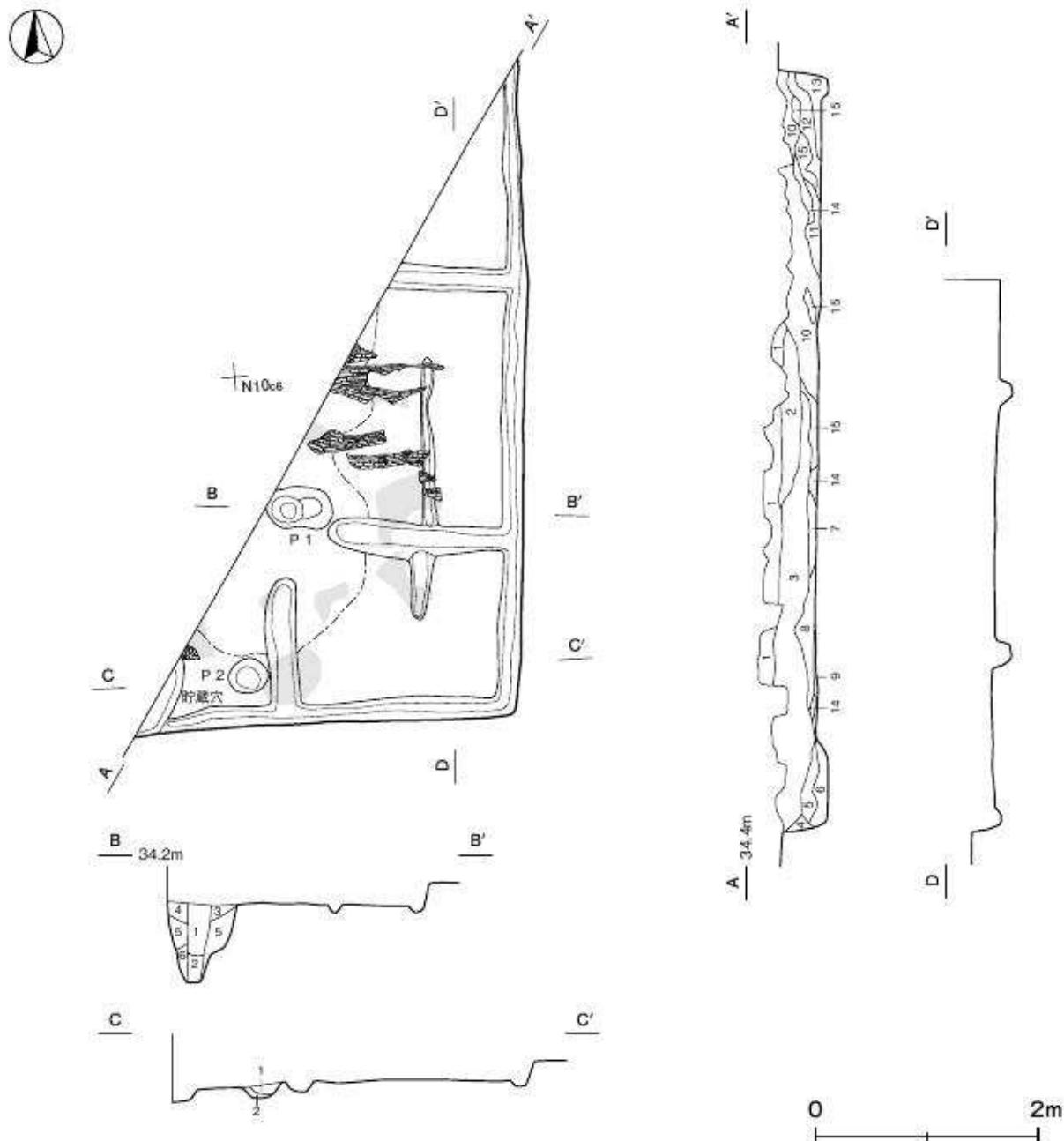
床 平坦で、中央部が踏み固められている。確認できた壁溝は幅8～12cm、深さ5cmである。間仕切り溝は3条で、長さ115～158cm、幅20～33cm、深さ10～14cmである。そのうちの1条からは、性格不明の別の溝が南北方向へ1条延びている。床面からは、焼土及び炭化材が出土しており、中央部の残りがよく柱材が並んで確認できた。

ピット 2か所。P.1は長径60cm、深さ67cmで、規模や配置から主柱穴である。P.2は径36cm、深さ12cmで、性格は不明である。

ピット土層解説（全ピット共通）

1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	4 褐 色 ロームブロック中量
2 褐 色 ローム粒子中量	5 褐 色 ロームブロック多量
3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量	6 褐 色 ローム粒子多量

貯蔵穴 南壁際に位置している。調査区域外に延びているため、詳細は不明である。



第24図 第10号竪穴建物跡実測図

覆土 15層に分層できる。ロームブロックが多く含まれ、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説（貯蔵穴含む）

1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土ブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化物中量、焼土ブロック少量	11 暗褐色	炭化物・焼土粒子中量、ロームブロック少量
4 褐色	ローム粒子多量、炭化物微量	12 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量
5 暗褐色	炭化粒子多量、焼土粒子中量、ロームブロック少量	13 黒褐色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量
6 暗褐色	炭化物・ローム粒子中量、焼土ブロック微量	14 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子多量、ロームブロック少量
7 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子中量	15 暗褐色	炭化粒子多量、焼土ブロック中量、ロームブロック少量
8 黒褐色	焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器片16点（坏1、甕類15）、須恵器片1点（坏身）が出土している。41は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉～末葉と考えられる。炭化材及び焼土が床面から出土していることから、焼失建物である。



第25図 第10号竪穴建物跡出土遺物実測図

第10号竪穴建物跡出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
41	須恵器	坏身	-	(15)	-	長石	灰	普通	ロクロナデ	覆土中	5% 東海産

第11号竪穴建物跡（第26・27図 PL 4・5）

位置 調査区北部のN10j8区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南部が搅乱を受けているため、東西軸は5.50mで、南北軸は4.80mしか確認できなかった。方形と推定され、主軸方向はN-18°-Eである。壁は高さ42～50cmで、直立している。

床 平坦である。壁下には、幅10～15cm、深さ8cmの壁溝がほぼ全周すると考えられるが、南側は搅乱で確認できなかった。

炉 北壁寄りに位置している。長径101cm、短径64cmの梢円形で、深さ6cmの地床炉である。火床を浅く掘りくぼめて構築されており、炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物少量、ロームブロック微量	2 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
--------	--------------------------	-------	-----------------------

ピット 6か所。P.1～P.4は径27～38cm、深さ57～70cmで、規模や配置から主柱穴である。P.4は土層から、柱痕跡と推測される。P.5・P.6は、性格不明である。

ピット土層解説（P.1・P.4共通）

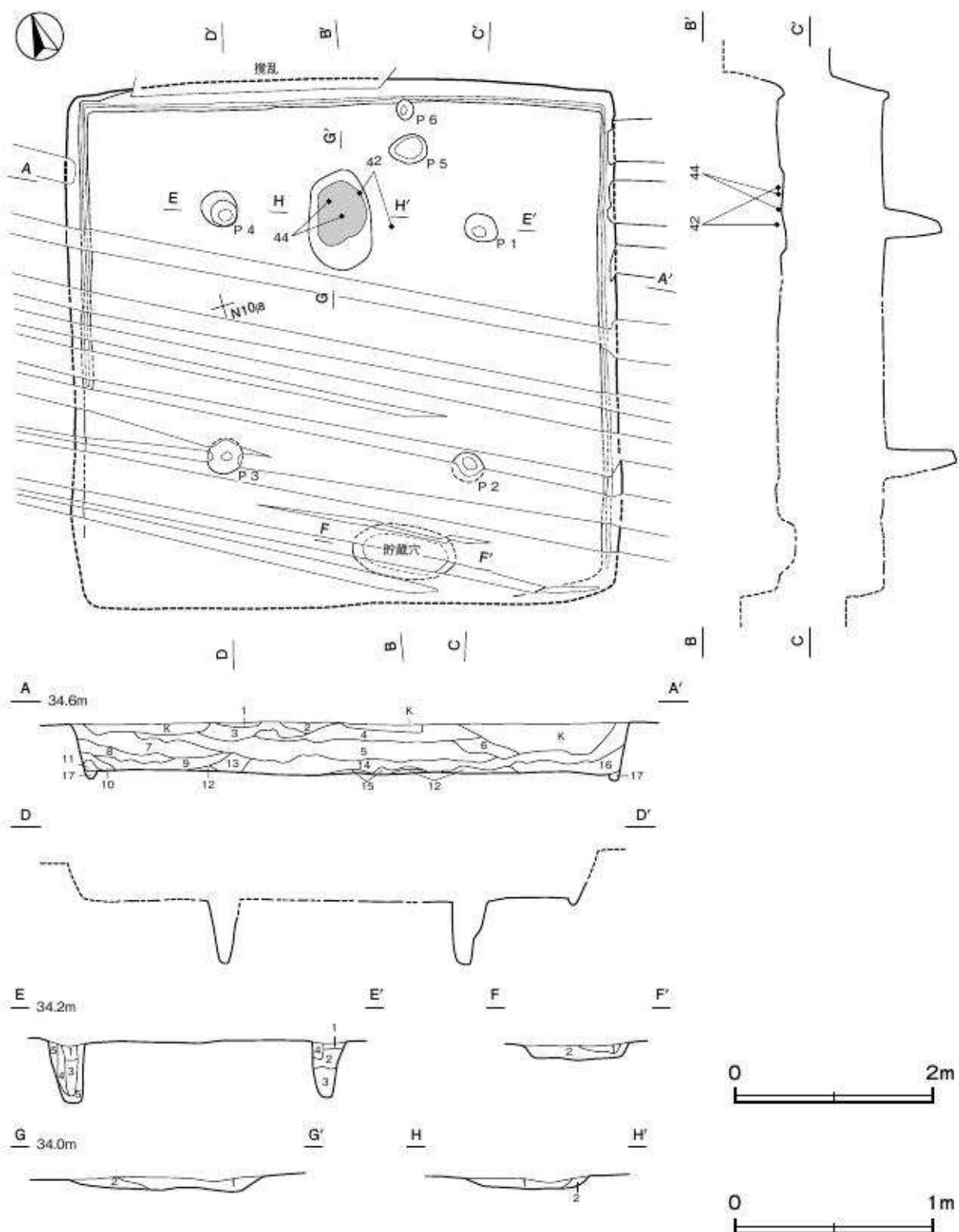
1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	4 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック多量
3 褐色	ロームブロック中量		

貯蔵穴 南壁際に位置している。長径105cm、短径55cmの梢円形で、深さは13cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量	2 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
-------	-----------------------	------	-------------------------

覆土 17層に分層できる。ロームブロックや炭化材・焼土が多く含まれていること、ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。



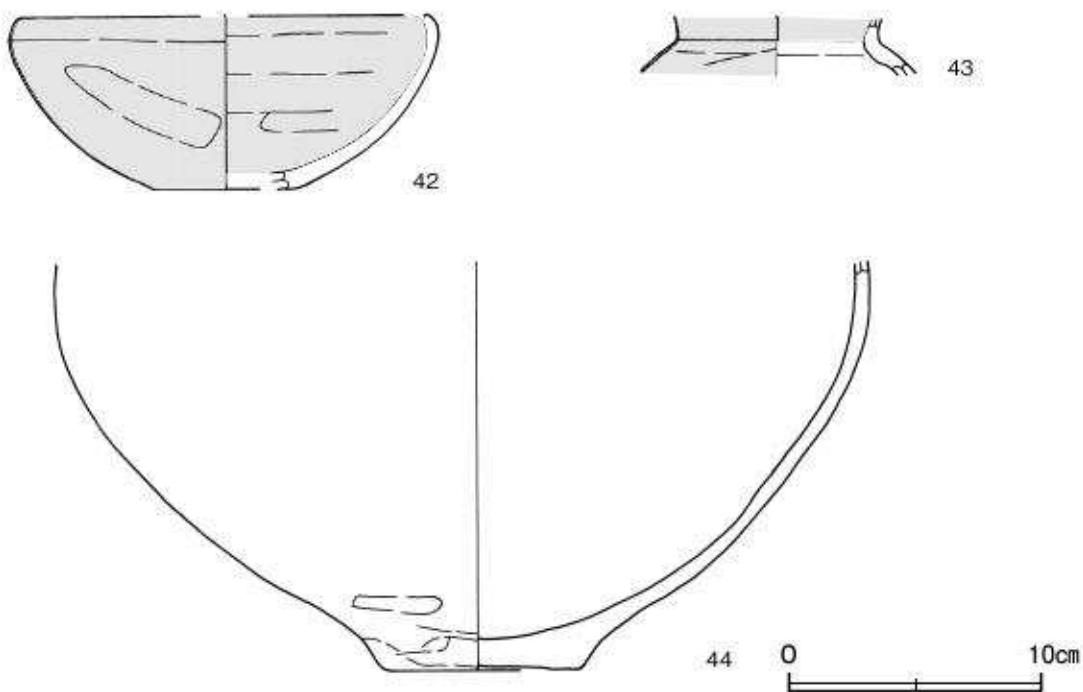
第26図 第11号竪穴建物跡実測図

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子多量、炭化物粒子少量、焼土ブロック微量
2 黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化物微量	11 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	12 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物微量
4 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量
5 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	14 暗褐色	ロームブロック・炭化物中量、焼土ブロック少量
6 黑褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量	15 暗褐色	焼土粒子多量、炭化粒子中量、ロームブロック少量
7 黑褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック微量	16 暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子多量、炭化物少量	17 暗褐色	ロームブロック多量、炭化物微量
9 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック微量		

遺物出土状況 土師器片 115 点 (坏 25, 坩 1, 麽類 89), 須恵器片 1 点 (甕類) のほか、土師質土器片 1 点 (擂鉢), 陶器片 1 点 (碗), 土製品 1 点 (不明) が出土している。42・44 は炉から出土している。43 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀後葉と考えられる。



第 27 図 第 11 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 11 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 27 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
42	土師器	坏	[16.1]	6.9	[5.8]	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	炉直上	20% PL27
43	土師器	壙	-	(23)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	頸部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	覆土中	5%
44	土師器	甕	-	(16.1)	7.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面ヘラナデ	炉直上	30%

第 12 号竪穴建物跡 (第 28・29 図)

位置 調査区北西部の O10d8 区、標高 34.5 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 188 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 全体的に搅乱を受けているため、北西・南東軸は 6.40 m、北東・南西軸は 5.20 m しか確認できなかった。方形と推定され、推定主軸方向は N - 30° - W である。壁は高さ 10 ~ 24cm で、確認できた壁は

ほぼ直立している。

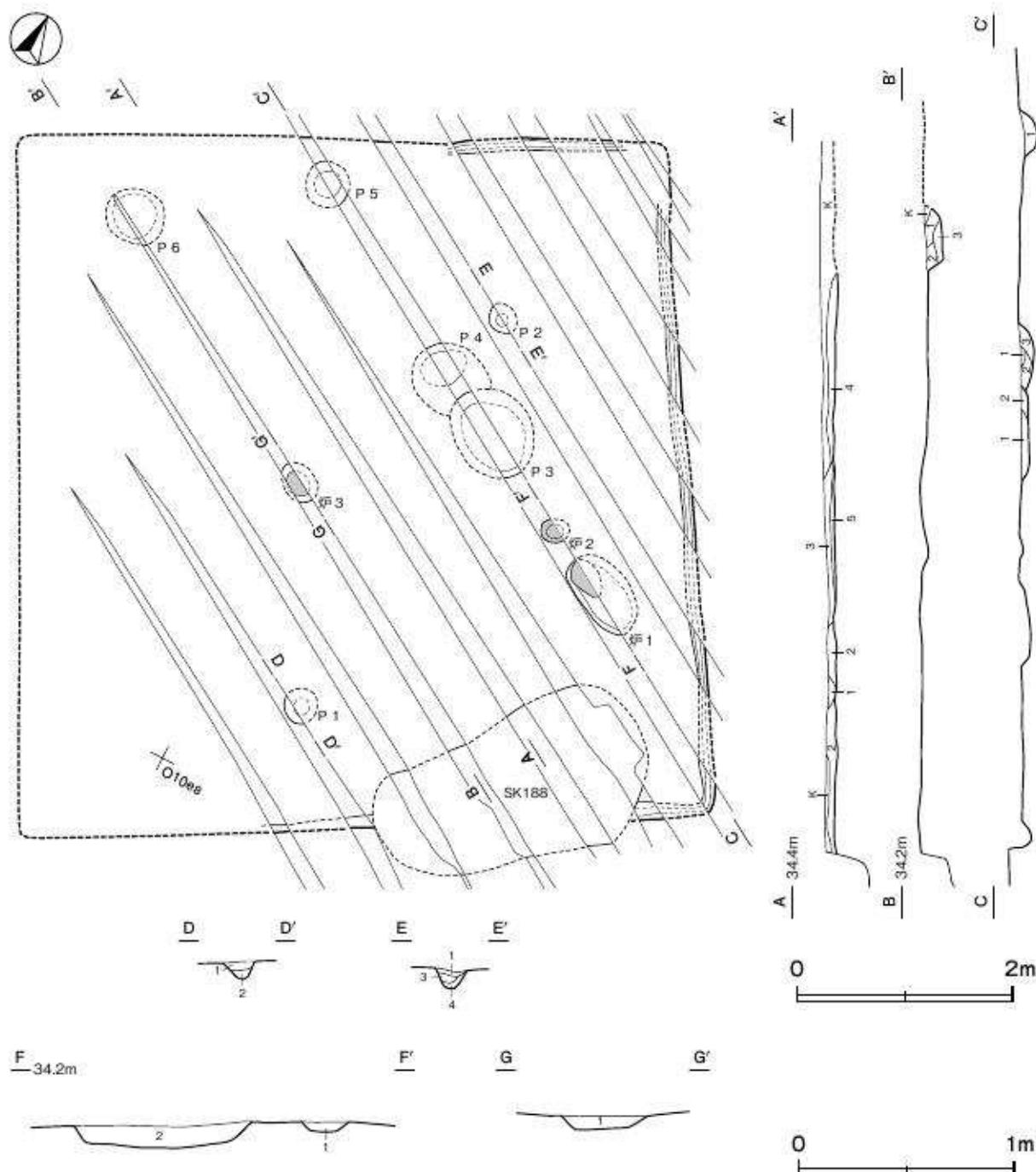
床 ほぼ平坦である。確認できた北から南にかけての壁下には、幅9~16cm、深さ8cmの壁溝がまわっている。

炉 3か所。ほぼ中央部に1か所、北東壁寄りに2か所位置している。長径26~82cm、短径26~46cmで、炉1が楕円形、炉2・炉3が円形で、深さ4~10cmの地床炉である。炉床面は、浅く掘りくぼめて構築されており、炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説（炉1~3共通）

1 にい砂褐色 烧土粒子多量、ローム粒子中量、炭化粒子少量

2 暗褐色 烧土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量



第28図 第12号堅穴建物跡実測図

ピット 6か所。P 1～P 6は径26～87cm、深さ8～20cmで、性格は不明である。

ピット土層解説 (P 1・P 2共通)

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

ピット土層解説 (P 3)

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量

- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット土層解説 (P 4)

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量

- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

ピット土層解説 (P 5)

- 1 褐色 ロームブロック中量

ピット土層解説 (P 6)

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

- 3 黒褐色 ロームブロック中量

- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量

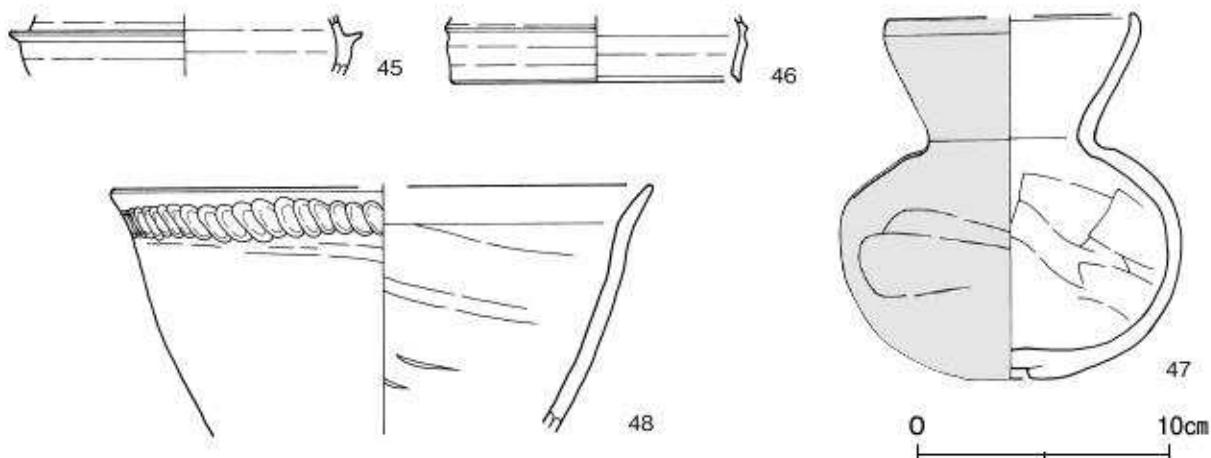
- 4 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量

- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量

- 5 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片188点（环22、塙1、鉢1、甕類164）、須恵器片3点（坏身2、坏蓋1）のほか、陶器片1点（碗）、磁器片1点（碗）、鉄製品1点（不明）が出土している。すべて覆土中からの出土で、埋め戻す過程で投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉～末葉と考えられる。



第29図 第12号竪穴建物跡出土遺物実測図

第12号竪穴建物跡出土遺物観察表（第29図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
45	須恵器	坏身	-	24	-	長石・石英	暗灰黄	普通	外・内面クロナデ	覆土中	5% 東海産 52と同一の可能性
46	須恵器	坏蓋	[11.4]	(27)	-	長石・石英	灰オリーブ	普通	外・内面クロナデ	覆土中	5% 東海産
47	土師器	塙	[9.8]	14.5	3.5	長石・石英	橙	普通	外・内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	覆土中	40%
48	土師器	鉢	[21.2]	(9.8)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部指頭削 体部内面ヘラナデ 外面壓縮のため不明	覆土中	15%

第 13 号竪穴建物跡（第 30・31 図）

位置 調査区北西部の O10f9 区、標高 34.5 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 撓乱により全体の 9 割ほどが壊されている。確認できた東西軸 5.00 m、南北軸 4.90 m の方形で、主軸方向は N - 14° - W である。壁は高さ 12 ~ 16 cm で、確認できた壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦だが、撓乱により壊されており、不明な部分が多い。

炉 北壁寄りに位置している。長径 38 cm、短径 35 cm の円形と考えられ、深さ 2.5 cm の地床炉である。炉床を浅く掘りくぼめて構築されており、炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

ピット 4 か所。P 1 ~ P 4 は径 18 ~ 33 cm、深さ 56 ~ 68 cm で、規模や配置から主柱穴である。大部分が撓乱により壊されているため、土層は確認できなかった。

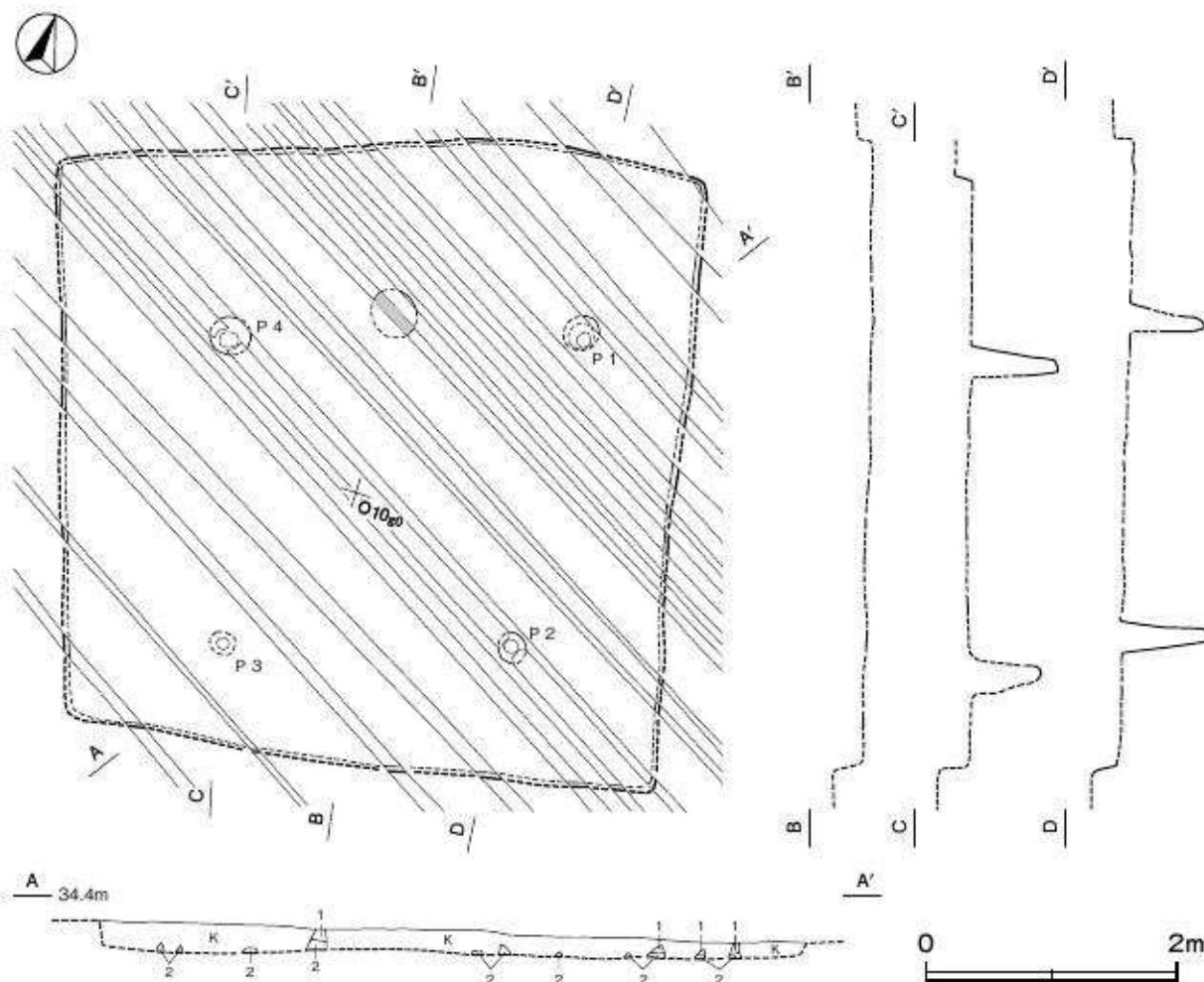
覆土 2 層に分層できるが、堆積状況は不明である。

土層解説

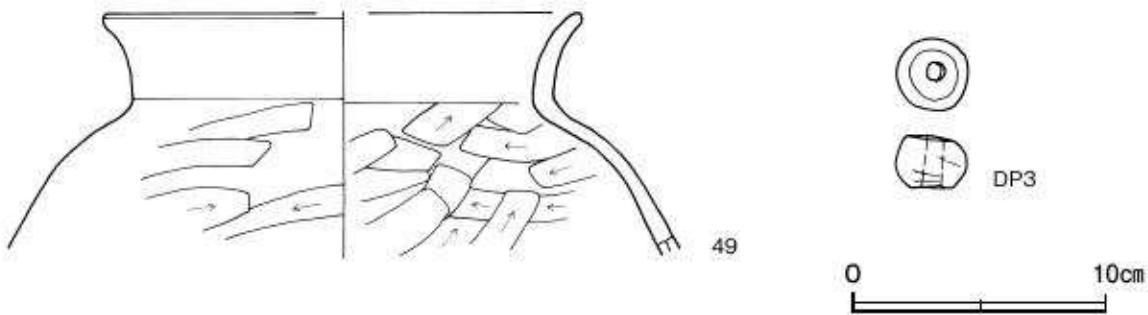
1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片 37 点（壺 1、甕類 36）、土製品 1 点（土玉）が出土している。すべて覆土中からの出土である。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀後葉～末葉と考えられる。



第 30 図 第 13 号竪穴建物跡実測図



第31図 第13号竪穴建物跡出土遺物実測図

第13号竪穴建物跡出土遺物観察表（第31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
49	土師器	甕	[18.6]	(9.7)	-	長石・石英・磁隕	桙	普通	外・内面ヘラ削り	覆土中	10%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP3	土玉	29	20	08	13.62	長石・石英	にぶい黄褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

第14号竪穴建物跡（第32図）

位置 調査区中央部のO11F4区、標高345mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 大部分が搅乱を受けているため、南北軸8.20m、東西軸7.85mの方形で、主軸方向はN-15°-Eと推測される。壁は高さ8~10cmで、確認できた壁は外傾している。

床 平坦だが、搅乱のため不明な部分が多い。

ピット 4か所。P1・P2は径26~36cm、深さ84~78cmで、規模や配置から主柱穴である。P3・P4は径32~79cm、P3の深さ30cmで、性格は不明である。

覆土 3層に分層できるが、搅乱が著しいため堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | | | |
|-------|------------------|----------|-------|------------|----------------|
| 1 暗褐色 | 色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 燒土ブロック微量 | 3 暗褐色 | 色 燃土ブロック中量 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | | | | |

遺物出土状況 土師器片28点（壺1、甕類27）のほか、土師質土器片1点（擂鉢）が出土している。すべて覆土中からの出土で、細片であるため図化できない。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉～末葉と考えられる。